

わが子のあゆみ



人道創作劇『イエフダーと七つの灯』上演

杉原千畝氏所縁の地「八百津町」では人道（人権）教育に力を入れています。

本校では、人道学習のまとめとして、毎年、5・6年生を中心に、杉原千畝氏オリジナル人道創作劇「イエフダーと七つの灯」を11月に上演しています。

この劇を通して、千畝氏の功績や行動の価値を学び、人道の心をさらに深めると共に、地域の方々に人道精神の大切さを発信しています。この活動に誇りをもち今後も取り組んでいきます。

2023.11
No.478

初冬号
第75巻3号

11

「なかつがわしりつつけちぎたしちうがっこう」

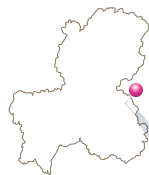
中津川市立付知北小学校



学校の教育目標

かしこく なかよく たくましく

住所 〒508-0351 中津川市付知町3719-1
TEL 0573-82-3029
児童数 122名



学校のたからもの①
地域の協力による豊かな体験学習

〔地域の自然や風土〕
本校は、裏木曾の雄大な山々に囲まれ、付知川の清流が北から南に流れる中津川市付知町の北端部に位置しています。校区には、国道257線・付知峠などがあり、他地域との交流も盛んです。こうした環境の中で、子供たちは付知川のように清らかに、裏木曾の木々のようにたくましく伸びようとしています。



校舎



さつまいも苗植え

低学年が毎年行う「さつまいもづくり」。畑の準備から、苗植え、草取り、収穫、そして焼き芋フェスティバルまでを、地域の皆さんに協力していただきながら実施しています。子供たちも地域の皆さんも「一緒にできてよかった。」「楽しかった。」と思える活動が仕組めるよう協働しながら行っています。三年生は総合学習で「付知の人々の暮らし」を学習しています。社会科の町探検ともつなげながら「お茶摘み体験」「製茶工場見学」を行いました。ここにも、ふるさとの産業の素晴らしさを知り、ふるさとを誇りに感じてほしいという地域の皆さんの願いと協力がありました。子供たちは、体験を通して働くことの大変さ、おいしいお茶になった喜び、収穫から商品となっていくまでの過程を学ぶ良い体験学習となりました。また、「ぎふ木育30年ビジョン」を受け、「木育スタッフ」の皆さんの協力による一年から六年までの「木育」への取り組みも、昨年より実施しています。木とふれ合い、親しむことで、木との関わりを生業としてきたふるさとの良さを知る大切な機会となっています。このように、恵まれた地域の協

力のもと、子供たちが豊かな体験ができることが宝物の一つです。

学校のたからもの②
地域との連携で実施「防災教育」

付知地区は地内の中心を北西・南東方向の活断層・阿寺断層が通過しています。また、断層谷に沿って付知川が南流し、本校を含め周辺地域が土砂災害特別警戒地区に指定されています。そこで「付知町まちづくり協議会」が主催となって地域ぐるみで「防災教育」が行われており、町内の小学校では、四・五・六年生を対象とした「命を守る訓練」が系統的、継続的に実施されています。六年生は、付知南小学校と合同で避難所に特化した訓練を行いました。避難所生活の模擬体験や、特に配慮が必要な方達(お年寄り、赤ちゃんのいる家庭)に対して、自分たちは何ができるかを考えるグループワークを通して、災害を自分ごととしてとらえ、互いに助け合って困難を乗り越えることの大切さを体感できるよい訓練となりました。また、五年生は、災害時に活用できる「炊飯方法」について学び、そこで得た知識を宿泊研修で実際にやってみることで、より深い学びへとつなげることができました。

学校のたからもの③
自分の命は自分で守る子に

昨年度、六年生を中心に各分団で、登下校の危険箇所と安全確保の方法について話し合いながら、各地区のハザードマップを作成しました。今年度もその「ハザードマップ」をもとに、登下校時の命を守る訓練を実施する予定です。本校では、このような訓練を含め、あらゆる災害を想定した「命を守る訓練」を年間八回実施する予定です。二回目の「命を守る訓練」では、地震などで学校が被災した場合を想定し、二次避難場所として本校の児童を受け入れていただく「宗敦寺」への避難訓練も行いました。これらの訓練を通して、「命」について考え、自分ごととして大切な命を守るための判断力、行動力を身に付けてほしいと願っています。



お茶摘み体験



製茶工場見学



木育「モビールづくり」



防災教室でのグループワーク



命を守る訓練で二次避難先へ

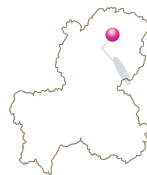


ハザードマップ作成

「たかやましりつみえだしちゅうがっこう」

高山市立三枝小学校

住所 〒506-0043 岐阜県高山市中切町715番地
TEL 0577-3210253
児童数 1111名



学校のたからもの①
地域の自然を守る心を育む
ホタルの飼育活動



学校の教育目標

三枝を愛し

志高く 自立する子

〔地域の自然や風土〕
御岳が望め川上川が流れ、縄文遺跡や山城跡が残る古くから先人が住み続けた自然豊かな三枝の郷。現在もヒールハウス栽培や稲作が盛んな地域で、子どもたちも栽培活動に取り組んでいます。1950年(昭和25年)に高山市立上枝小学校が分割し、旧中切分校校舎を引継ぎ開校したのが、この三枝小学校、再来年には設立75周年を迎えます。
昨年度までの二年間の大規模な長寿命命改修工事により、老朽化の見られた学び舎は、飛騨の木材や伝統工芸をふんだんに使用して真新しい木造化の校舎に一新しました。



校舎



〔新しい木造化校舎〕

校舎改築の記念に、児童玄関の正面の壁は地域の職人さんによる稲穂をイメージした土壁となり、全校児童、職員は自分の指先を型押しして、稲穂を表現しました。

自然豊かな校区の夏、今では珍しいホタルが舞う様子が見られる場所がいくつかあります。学校でもホタルを飼育し守り続けたいと、4年生が中心となり取り組んでいます。地域のホタル保存会やPTAの方々にご協力いただき、学校の敷地内には、「ホタル小屋」や、プールほどの大きさのビオトープ「ホタル夢ランド」があり、ホタルの飼育・観察が可能です。



〔三枝の歴史を学ぶ6年生〕

日本の歴史を学ぶだけでなく、合わせて身近な三枝校区の歴史を学ぶことで、さらに学習を深めます。写真は、校区内にある竪穴住居跡の屋根ふきを見学し、お手伝いした時の様子です。

春は幼虫の放流。夏はホタルの夕べと飛翔観察、ホタルのいなくなった秋にも、次年度に向けて卵から羽化した幼虫の餌となるカワナ採り、ホタル小屋の掃除等、年間で行うべきことがたくさんあります。このホタルの飼育活動を通して、命の尊さや環境保全、自然との共生についても学んでいます。ホタルの飼育ができれば、一人前です。

学校のたからもの②
全校縦割り班活動の集大成
「かぶら市」!

三枝小学校では、縦割り班活動の「さえぐさ活動」を学校の教育活動に取り入れていきます。日常的な全校掃除や全校遊びだけではなく、40年以上前から続く「かぶら市」は、子どもたちが楽しみにしている行事の一つです。夏から秋にかけて、全校で大根と赤かぶの栽培をします。うね作り、種まき、間引き、水やりなど異学年での交流を通して、6年生がリーダー性を発揮し、全校が互いに協力して進めていきます。そして、11月には、「かぶら市」を開き、自分たちの育てた自慢の大根と赤かぶを全校で地域の方に販売します。取り組みの全てを高学年に任せるのではなく、中



〔ホテル保存会の方から学ぶ4年生〕
ホテルの生態について自分で調べたことをもとにしながら、ホテル保存会の方に質問して学びを深めます。

〔ホテルの夕べ〕
校区内にホテルが飛び交う6月の中旬にホテル保存会の方や保護者を招いて、4年生がホテルについて調べたことや取り組んできたことをクイズ形式や劇で発表します。その後、親子で飛翔観察等も行います。

学年は、お店の看板作りやかぶら市当日の接客、低学年もイラストを描いた法被を着て大きな声で集客を手伝います。地域の皆さんに喜んでもらえるかぶら市にしよう!」地域のみなさんと伝統を守るろう!」と全校と地域が一つになって取り組んでいます。

学校のたからもの③
力強いサポートをいただける地域、
まち協、PTAの皆さんとのふれあい

地域の企業や事業主の方々や、三枝の郷(さえぐさのさと)まちづくり協議会、PTA

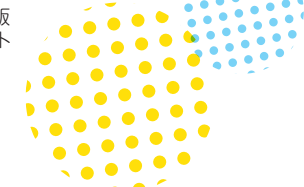
にご協力をいただき、夏休み中に小学校では珍しい4年生からの職場体験があります。また、各種イベントをいくつも企画してくださるまち協の取り組みは、三枝小の教育目標にある「三枝を愛し」を具現させるために不可欠なものになっています。いつも支えて下さり、ありがとうございます!
子どもたちは、サポートを受けるばかりではなく、1・2年生は敬老会の皆様にあさがおの種のプレゼント、3年生は自分たちが栽培した花鉢をプレゼント等、地域に元気を送るうと、地域に対する貢献活動をしていく姿につながっています。



〔大根・赤かぶの栽培〕
縦割り班で8月下旬に種まきをして、11月には収穫します。6年生が各縦割り班のリーダーとなり、手本を示しながら、種のまき方を下学年の子らに教えます。



〔かぶら市〕
自分たちで育てた大根や赤かぶを地域の方々に販売したり、学習でお世話になった方々にプレゼントしたりします。地域の方を触れ合う大切な場です。



〔川上川の水質検査をする5年生〕
校区の環境を知るために、川上川の水質検査をしたり、生き物調査をしたりします。



〔職場体験〕
夏休み中の3日間、4~6年生(希望者)が職場体験をさせていただきます。地域の仕事を体験するよい機会にもなっています。

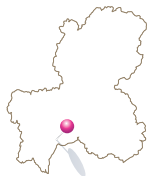


〔寄せ植えを学ぶ3年生〕
長寿会の方々にプレゼントするために寄せ植えの方法を学び、育て方についても教えていただきます。

【あひさつめいじゅうがっこう】

岐阜市立明郷小学校

住所 〒500-8302
岐阜市本郷町3丁目1
TEL 058-251-0603
児童数 338名



〈地域の自然や風土〉

明郷小学校は、平成24年4月1日、岐阜市立の明徳小学校と本郷小学校が統合し、本郷小学校跡地に開校した岐阜市で3番目に統合した小学校です。旧明徳小学校跡地には、言語通級指導教室「ことばの教室」を分教室として四教室開設しています。

校区は、岐阜市の中心部に位置し、商店街、旧岐阜市役所庁舎や岐阜メディアアコスモなどの官公庁が歩いて行ける近さにあります。学校の近くには、櫛並木の美しい本郷町通り、商業活動が盛んな柳ヶ瀬商店街、ドリームシアター岐阜、清流長良川等があり、教育環境に大変恵まれています。



校舎



3本柱の活動の1つ「あいさつ運動」



学校の教育目標

みとめあい まなびあい
たくましく活動する 明郷の子
進んでつながる子 進んで話し合い表現する子
進んでやりぬく子

学校のたからもの①

全校あいさつ運動から
一人あいさつ運動へ

「おはようございますー」、「おはようございますー」年間二回の全校あいさつ運動のある朝は、本校にある四つの校門から元気で清々しい朝のあいさつをする児童の声が響き渡ります。伝統ある活動の一つとなった『全校あいさつ運動』では児童会役員(以下、けやき委員)がPTA本部役員や教職員、卒業した中



「進んでの心」
進んでつながる子
進んで話し合い表現する子
進んでやりぬく子

学校のたからもの②

「進んでの心」で活動する子どもたち

明郷小学校では学校の教育目標『みとめあい まなびあい たくましく活動する 明郷の子』を具現した「進んでつながる子」、「進んで話し合い表現する子」、「進んでやりぬく子」の三つの「進んでの心」を發揮する子どもたちの育成を目指しています。
「進んでつながる子」では、縦割り活動の「なかよし活動」において高学年が企画運営するなかよし遊びを通して学年の枠を超えて一緒に遊びながら、お互いの存在やよさを認め合って楽しく活動しています。

学校のたからもの④

スマイルカードで自分たちのよさを
実感する子どもたち

本校ではスマイルカードによって自分たちのよさを実感し、自己肯定感を高める取り組みをしています。スマイルカードとは、毎年六年生がデザインしたものをがき大のカードに印刷して「ほめてあげたいこと」、「感謝の気持ち」、「仲間のよいところ」、「教師からの賞賛や励ましの言葉」、「地域や卒業した先輩方からの子どもたちへの願い」等を記入し、掲示することで自分たちのよさを実感する取り組みです。スマイルカードを教室や校内に掲示し、「見える化」することで、自分たちのよさや家庭や地域からの願いをより実感することができ、学校と家庭と地域が連携して将来の明郷地区を担う大切な子どもたちの育成を目指しています。



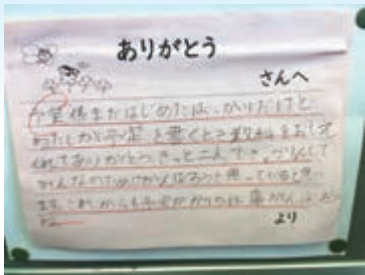
学校の近くにある
けやき通りを
地域の方々と一緒に
奉仕活動を行う児童



あいさつ運動が終わっても「進んでの心」で
「一人あいさつ運動」をやりぬく子



スマイルカード
(全校や地域の方からのよさ見つけ)



仲間の行為の思いまでも見つめる
「よさみつけ」



「あいさつで心と心をつなごうキャンペーン」で
咲かせた「あいさつの花」

学校のたからもの③

仲間のよさを見つけ、自分にも
取り入れよつとする子どもたち

多くの学校でも取り組まれている「よさ見つけ」を本校でも取り組んでいます。本校では、けやき委員会が中心となって見つけた仲間のよさをお昼の放送などを使って全校に紹介したり、学級内で帰りの会などを使って仲間のよさを書いて掲示したりしています。以前は仲間の言動の表面的な部分を見つけて紹介することが多かったのですが、取り組みを継続することで、仲間の言動は、「ぎつと」という思いによって行っていると思う。といった仲間の言動のよさの背景までも、想像して考えることができる子どもたちが増えていくことが明郷小学校のたからものです。



掲示されたスマイルカード

「いびがわちまうりしたにふみちまうがうり」

揖斐川町立谷汲中学校

住所 〒501-1314
揖斐郡揖斐川町谷汲名礼244-13
TEL 0585-56-3008
生徒数 555名



学校のたからもの① 総合的な学習の時間(谷汲タイム)

〔地域の自然や風土〕
本校は、揖斐郡揖斐川町の東部に位置し、東に根尾川が流れています。谷汲は、「西国三十三所観音霊場」の第三十三番札所「結願・満願のお寺」として有名な谷汲山華厳寺と両界山横蔵寺があります。春には桜、秋には紅葉が美しく、たくさんのお客で賑わいます。谷汲は、1・小1中なのでPTA活動の家庭教育学級や広報などを小学校と中学校、合同で実施しています。



学校の教育目標

変化に立ち向かい、
自らの手で未来社会を
逞しく創造できる人間になれ!

は、体育的行事として6月に体育祭を実施しました。各学年で競技案を出し、ルールや競技図などを決めます。学年や男女の枠を超え、全校で楽しめる体育祭となりました。
また、文化的行事として、今年初めて7月に地域交流・地域活性をねらいとした夏祭りを実施しました。生徒が企画をし、運営ボランティアを募りました。300人を超える地域の方が参加をしてくださりました。屋台やゲーム、竹あかりなどの準備をしたり、65発の打ち上げ花火をあげたりし、地域の方にも喜んでもらえました。

学校のたからもの③ 小中合同ひびきあい活動

昨年度、小中合同ひびきあい集会を行い、小学校と中学校の共通の人權スローガン「お互いを大切にし、誰もが安心してくらせる谷汲」を策定しました。また、行動目標として、「相手を大切にする挨拶をしよう」、「みんなの物をみんなのためにきれいにしよう」、「自分の気持ちを相手に伝えよう」の3つを決めました。1学期には掃除交流として、小学生が中学校に来て掃除の様子を見たり、2学期にはなかよし交流として一緒に遊ぶ活動を計画し

学校のたからもの② 自らの手で創りあげる生徒会行事

生徒会には、生徒会行事を企画する体育的行事実行委員会と文化的行事実行委員会があります。毎年、どのような行事をいつ行うかを実行委員会が計画をしています。今年度

学校のたからもの④ キャリア教育

本校では、キャリア教育の一貫として2年生が先生となり、小学校に授業を教える活動を行っています。昨年度は、算数の授業を教えるにきました。今年度は、道徳の授業を計画しています。小学生のために、いろいろな教材を準備したり、話し方などの練習をしました。

また、職場体験や職業講話などを行い、将来の目標や夢などをもてるように取り組んでいます。



校舎



谷汲タイム「箸置き製作」



みわ屋さんとのコラボ
「抹茶シフォンケーキ」



体育祭



小中合同児童生徒会



谷汲中夏祭り



谷汲中夏祭り



小中掃除交流



小学校で授業をする中学生

9月号を読んで

同じ多治見市内の滝呂小学校の記事を拝見して…裏面のセレクト給食を見て、「あー、うちの子ももうすぐ学校であるなあ」とふと思ひ、子供に話すととても喜んでいましたが、それと同時に「あー、もうすぐ卒業しちゃうのかあ…残りの半年で小学校も終わってしまうんだ」と、実感してしまいました。もうすぐ学校行事の運動会があるので、今は最高学年として下級生を引っ張っていている姿を見ると、成長を感じながら、少しだけ寂しい気分にもなる今日この頃です…。悔いのないように思い切り何でもやりきって…と願います。(Bさん)

私が出会った1冊の本のコーナーを読んで、「君たちはどう生きるか」が気になっていたのを読んでみたいと思いました。また、鏡島小(近くの小学校)の事が載っていたので、興味深く読ませていただきました。(Nさん)

「家庭でできるアクティブ・ラーニング」にすごく興味を持ちました。先生がどんなに努力しても結果が出ないことから、1度自分自身をなにもない状態から考える力を身に付け、その結果、すべてが上向きになった経験から、子どもたちに学習だけでなく人生において、考える力をインストールすることで、より豊かな時間が過ごせることを素敵と思い、私なりに実践したくなりました。(Sさん)

「みんなで家庭教育!」を読みました。子供に「ありがとう」を伝えているかなと振り返ってみると、そんなにかなと思います。これからちゃんと伝えようと思います。(Mさん)

「教育の窓」で子供の恩師を見つけ、読み入ってしまいました。ADHDや発達障がいについて少し理解できました。何か困った事があれば相談したいと思いました。(Kさん)

教育の窓の土岐市立肥田中学校校長の鈴木雄詞さんの投稿には「はっ」とさせられました。親が口出しする私。よくやっていると思ったし、事実です。見届ける勇気を持つこと、子供の社会に大人があまり入りすぎないようすること。改めて気づかせていただきました。(Hさん)

お試しクッキングを作ってみました。ナスが苦手だったけど、美味しいと食べてくれました。苦手なものを減らしたいので助かります!!(Wさん)

いつも楽しく拝見しています。お試しクッキングの「なすとトマトのチーズ焼き」が美味しそうだったのでさっそく作ってみました。うちの子はナスが苦手ですが、トマトやチーズの味がしたのか、美味しく食べてくれました。(Kさん)

学校紹介も他の学校のこと、知れて良かったです。いろんな特集も記載されていて見るのが楽しみです。子供が学校で回覧で、持ち帰って見るだけですが、とても助かります。これからも頑張ってください。クイズはいつも楽しみにしています。親が応募するのを楽しみにしているのですが、良いか分かりませんが、正解していたら嬉しいです。(Iさん)

「ありがとう」って素敵な言葉ですね。今までは、なるべく子供の良い所を見つけて褒めて伸ばす子育てを心がけていましたが、子供も大きくなってきたので、対等な立場の「ありがとう」を使いたいなと思いました。子供に対して褒めることも大事ですが、誰でも自然と受け止められる「ありがとう」をたくさん伝えていきたいです。(Tさん)

お子さんに「ありがとう」の気持ちを伝えていきますか?の問いかけに「ハッ」としました。注意をしたり叱ることが多い毎日。子供から何かをしてもらっても、改めて「ありがとう」と言うのは、何だか照れくさいのもあって、あまり言っていませんでした。心の中では感謝していても、それを言葉にしなければ伝わりません。子供に対して、「ありがとうは?」と強要するのはなく、まずは親から「ありがとう」という言葉を、生活の中で使う姿を見せていこうと思います。その言葉で、お互いが笑顔になれば嬉しいです。(Iさん)

もくじ わが子のあゆみ 2023.11 No.478 初冬号

- 表紙 八百津町立八百津小学校
- 1 学校のたからもの
中津川市立付知北小学校／高山市立三枝小学校
岐阜市立明郷小学校／揖斐川町立谷汲中学校
- 11 特集 第44回岐阜県PTA連合会定期大会
記念講演「家庭でできるアクティブ・ラーニング
生活の中で自分で考える力をつける(後編)」
教育デザインラボ代表理事 石田 勝紀 氏
- 17 みんなで家庭教育!
岐阜県環境生活部環境生活政策課
- 18 先生!ありがとう!
保護者から先生へ贈る感謝の400字メッセージ
- 19 「多様性尊重の教育③」
みんな、いっしょに! 安田 和夫
- 21 保健室ノート 奥村 尚子
- 23 私の先生⑥ 丹羽 純子
- 25 わが家の宝物 渡辺 和之
- 26 リレーエッセイ⑥ 木下 真衣
- 27 子育て半生記 木村 峰
- 29 楽しい読み聞かせ⑥ 美濃市立大矢田小学校PTA
- 31 親の背中⑥ 川村 克己・前田 靖
- 33 私が出会った1冊の本【続61】
中垣 野歩・青木 一英
- 35 子の思い 松田 純太郎・下嶋 杏奈・吉村 綾菜
親の願い 小寺 敦・川崎 智明
教育の窓 遠藤 聡・渡邊 寛樹
- 40 話そう!語ろう!わが家の約束 河村 あゆみ・松村 麻里
- 41 親子ではてな
- 42 お試しクッキング
岐阜県学校栄養士会・(公財)岐阜県学校給食会
- 43 ふるさとの伝承 白川村立白川郷学園
- 45 ざらり!キッズ! 岐阜市立鷺山小学校
- 47 夢中!熱中!我がが部活 大野町立大野中学校
- 49 私たちのPTA 多治見市立根本小学校PTA

三井住友海上は、持続可能な社会の実現に取り組みます

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

8 働きがいも経済成長も

11 住み続けられるまちづくりを

SDGsで 人とテクノロジーをつなぐ

先端技術を活用して社会の課題解決に貢献

スマート農業の展開支援

ロボット・AI等の先端技術導入、活用に向けた支援により
「農業者の人材不足・作業効率の向上化」などの
地域の農業課題を解決



- AI搭載 自動収穫ロボット
- 自立走行する センシング・運搬ロボット
- パワーアシスト型 ロボット
- 遠隔操作による 草刈りロボット
- ドローンによる 農薬散布

ドライブレコーダーを活用した 取り組み

保険会社ならではの
専用ドライブレコーダー×AI技術



映像データからAIが損傷箇所を検出し
道路点検を支援するサービス

AI事故状況説明システムによる
迅速な事故解決

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。
*外部環境にシなやかに対応する、持続可能な社会



「家庭でできるアクティブ・ラーニング 生活の中で自分で考える力をつける」

後編

教育デザインラボ代表理事 石田勝紀 氏



まず最初に、疑問を持つ力、これを上げるにはどうするかです。

一番簡単な方法は、子どもに問い掛ける、声掛けをする事なんです。声掛けをすると人間はその言葉に意識が向くので頭が動き出すんですよね。その1つが「なぜだと思おう？」というワードです。例えば皆さん、家に住所ありますね。「皆さんの住所はどこですか？」と聞かれたら答えられますよね。これを知識と言います。単なる知識です。考えていないです。脳に入っているから答えられただけです。じゃあ、「なぜそこに住もうと思ったんですか？」って聞かれたら、「あれ？何でここに住もうと思ったんだろう？」って考えますでしょ。これを「考える」って言ってます。「なぜこうなってる？」って聞かれた瞬間、「あれ？何でかな？」って。ここで脳の神経細胞、シナプスにグーと電気が走っている訳なんです。これがさっき言った、チョコちゃんに叱られる番組、これ

をやっているんですよ。

でも、なぜって問われなければ、意識は向かないから、いつまでも考えるっていうのはない。疑問に持たないという事なんですよね。勉強が出来ているスペックの高い子たちは、「何でこんな解き方するのか？」とか、「えっ？この漢字ってどういう成り立ちなのか？」とか、自分でやっているんですよ、自問自答しながら。しかし、これは目には見えないんです。頭の中でやっているから。だから、端から見ると同じように机に座って勉強しているも、かたや考えている子、かたや考えていない子、でも同じにしか見えないんです。これが同じ勉強をしていて差が付く理由ですね。なので、授業をやる先生が、「君らさ、何でここをこうしたの？」とか「これ、何でこういう解き方していると思う？」って聞くと、みんな「うーん、何でかな？」って考えますよね。ちなみに、話題は何でもいいんです、日常の雑談の中で「なぜ？」って入れて聞くと、90%の確立で分からないって言うて来ます。これももう織り込み済みです。これでオッケーなんです。つまり、「何でだと思おう？」って言うって、「うーん？」とやっている間を考えると、答えはどうでもいいんです。合っているようが間違っているようが、分からないと言おうが関係ないんです。面白い事に、これを日常時折やっていると、「なぜ？」という疑問を持つフォーマットが出来るんです。そうすると、子どもは、学校の授業中に「何で？」が出て来るようになります。家では出て来ないけど、外でそれが出て来る。そうやって、「なぜ」を意

識して考えますよね。考えると記憶するんです。理解も出来るという構図ですよ。

2つ目は、「どう思う？」って言うやつです。英語で言うとHOWですけれどね。これ、自己表現力に繋がる物ですけど、「これ、どう思う？」って聞くんですよ。すると、これ記述式の問題みたいに、何かしら記述で答えなきゃいけないじゃないですか。まあ、「別に」とか、「何も思わない」とかって拒絶する子もいますけれどね、これもさっきの「なぜ」と一緒で、「どう思う？」って言われたら、「うーん？」ってなりますよね。頭が動いて考えるわけです。これも、答えはどうでもいい。どんな返答が来てもオッケー。分からないと言ってもオッケーという事です。

3つ目は、「どうしたらいい？」って言うやつです。これは、問題解決に繋がる重要ワードです。普通、子どもが親に、「お母さん、これどうしたらいい？」って聞いて来ると、答えちゃうじゃないですか、答えますよね。子どもに鍛えられてどうするんだってね、そういう時はオーム返しです。「どう思う？どうしたらいいと思う？」って、まずは子どもから。すると、分からないってほしい言うから、その後に答えてあげるといって、この手順を踏んでいくと子どもの脳は動き出します。なので、英語で言うとWHYとHOWの2つです。この問い掛けですね。これを使ってみるといいでしょうというのが1つです。例えば、「関ヶ原の戦いが1600年にあり、徳川側が勝ちました」。面白くないですよ、この話って。ところが、「人数が少ないにもかかわらず、なぜ家

疑問を持つ力 〈3つのマジックワード〉

康側が勝ったの？」って聞かれると、「あれ、何でだろう？」って思いませんか。好奇心が出て来るでしょ。そこでその後に、「実はね」という話が始まると、聞こうと思っているから良く聞きますよね。だから、この「なぜ」という問いかけを交えていくと面白くなるんです。これが勉強です。時間の問題もあるから、全部はやっていられないんだけど、時折入れるんですよ。そうすると学校の授業が面白く感じ出すという事です。さっきも話したとおり、これを自分で出来る子たちがいるんです、5%くらいいます。こういう子は放っておけばいいんですよ。制約を加えず自由にやらせておけばいい。だけど、そうではない子が殆どなので、周りの大人たちがそれをちょっと手助けして誘ってやるんです。そうすると、ちょっとしたきっかけで「うわー面白い」ってなったら動き出すんです。これが学びという物なんです。

まとめる力 〈2つのマジックワード〉

さて、2つ目、考える力を付けるための2つ目です。

抽象的と具体的という言葉がありますよね。抽象的って何かというと、ざっくりとした表現。具体的は、はっきりとしている。例えば、「地球環境は今汚染されている」とあったら、この表現は抽象的って言います。ざっくりしているでしょ。「鯨のお腹を開いてみたらプラスチックがいっぱい出て来ました」。これは具体的と言います。分かりやすい。はっきりしているからですよ。文

章にしても、会話にしても、具体文と抽象文の羅列で出来ているんですよ。抽象だけ喋っているとか何を言っているのか分からない、ざっくりし過ぎて。だから具体的な物も言っただけから言っしますよね。でも、具体的な事ばかり言っていると、何が言いたいのか分からないんですよ。だから、具体と抽象という2つの物で構成されているんですよ。ちなみに、国語のテストの答えは全部抽象的に書かれている選択肢が答えです。なぜかという抽象は全部を含んでいるからです。具体的というそれだけです。それだけというのは、ただの例として出ているだけだから答えにはならないんです。だからよく、テスト前に子どもたちに言うんです。「どうしても選択肢見て分からなかったら、一番読んで意味が分からないやつを丸にしとけ」と。「それが答えだ」と。ちょっと例を挙げると、国語の文章にしましょうか。一つの段落があります。この一つの段落に文が幾つか入っていますね。説明文の場合は、一つの段落に言いたい事一個ってルールが決まっています。この一つの事を言うために、いろんな文章をだ



らだらいいっぱい書いていますよ。では、この一つの言いたい事をどうやって掴むか。ただ一言子どもたちにこう聞くんです。「この第一段落、要するに何を言っているの？」って。そうすると、短い言葉がポイントと返って来ます。これ、要約って言うんです。それが、その段落のタイトルです。文章が短かったら、「もう少し説明するとどんな事？」って聞くと、「これこれこんな感じ」って口で言えるでしょ。言ったのをそのまま書かせると答えなんです。これを抽象的思考って言うんです。ざっくりとまとめる事が出来る。ところが、国語が出来ない子たちは、全部の文章を見て、違う事が書いてあるから、全部違う物だと思ってるんですよ。だから、何言っているのかさっぱり分かっていないんです。でも、国語が出来る子たちがこれを読むと、「あつ、要するにこれだね」って、ざっくりとまとめて行きながら、頭の中が自動的に整理されて行っているんです。これが、本が読める子と読めない子の違いです。

子どもたちは文の読み方を知らない。よく、当てられて音読しますよね、あれ、字面を読んでいるだけですよ。だから頭に入っていないんです。何を言っているのか分かっていない。国立研究所がやった統計データによると、教科書読めていない子が小学生で半分いると言っていました。字は読めるけど何を言っているのか分からないんです。これ怖くないですか。でも、私もその一人だったんですよ、かつて。読解力なかったから。そこで、読解力を上げる授業の仕方というのは、

から見ると、ブードルもこのゴールデンも犬だよ、犬という視点から見たら同じですよ。こうやって上から見ていくと、どんどんどんどん上に上がると抽象度が上がるって言うんですね。生物という所まで上がって行くと、全部一緒だよって。つまり、同じ物が見つけられると抽象度が上がるという事なんです。

子どもは放っておくと違いばかりを見つけてます。だからいじめが起こるんですよ。あの鼻が変とか、服が変とか。つまり違いを見つけている事をいじめって言うんですよ。だけど、共通だと、同じだと分かったらいじめは起こらないですよ。だけど、違いを見つけているのは、おそらく人間の本能じゃないかと思うんですよ。違う物が入って来るとやられるから、異物を排除するっていう本能的な物。だけど同じという共通認識が出来るようになって来ると、抽象度が上がって行き、頭脳のスペックが上がって行くという事ですね。だから、頭脳のスペックが上がると、考える力がつくと、過去問、過去5年分を横に串刺ししてみるとパターンが見えますよ、どうやって問題作っているのか、ダミーの選択肢はどう作られているのか、共通項が見えます。これが傾向と対策というやつですね。なので、考える力が付いて行くと結構楽になります。だって無駄な事やらなくていいから。共通部分という事で全部処理しちゃうので。だから、言葉で言うと「要するにどういう事だと思っ？」とか、「例えばどんな事？」って言うと、今度は具体事例が出てくるでしょ。そうすると抽象と具体の

私が全部読み聞かせをするんですが、「ああ、こうやって読むんだね」って言う事がそれで分かって行くんですよ。「ここはほら、例を挙げているだけだからこれいらぬよな、答えにならないよね」って。「結局何が言いたいの？これって」と問いかけると、「これこれ言いたいの」と、「じゃあ、それに近い答えどれ？」ってみたいに誘導して行くんです。国語の問題ってそうやって作っているんです。こうやっていくと国語の授業が面白くなりませんか。これを読解と言うんですよ。でも、やらないんですよ、こういう事。なので、こうやって一つの文の中に、具体と抽象が織り交ぜられている事すら知らないですね。この具体と抽象という見方が出来るだけで、ズドンと上がって行くんですよ。

では、抽象的な思考が出来るにはどうするか？さっき言った「要するにこれどういう事？」という話を聞きます。子どもが日常、学校でこんな事あった、あんな事あったって言って来たら、「本当、そんな事あったんだ、それで、結局どういう話だったの？」って聞くとまとめるでしょ。「簡単に言うとか何？」とか「要するに何？」って問いかけをされると人間はまとめるんですよ。このまとめる事を抽象化と言うんです。この抽象化が出来る人の事を賢い人と言うんです。

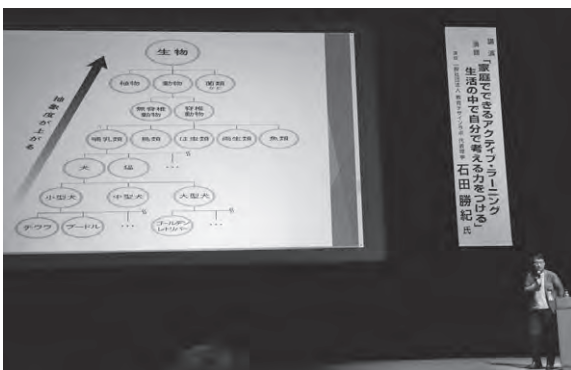
子どもがもっと小さい場合、小学校低学年とか幼稚園・保育園児の場合は、この言葉の代わりに、「似ている所はどこ？」って聞いてみるんです。

これちょっとご覧頂くと分かるんですけど、例往復がばはん動き出すので、脳が活性化されて行きますね。それで、スペックがバンバンと上がって行くという事です。

考える力をさらに発展させる 5つのマジックワード

さて、そこで、次に考える力です。ここに5つ挙げていきますけど、他にどんな問い掛けをするかと頭脳が動き出すのか、OSのスペックが上がるかという所で、1つ目、「楽しむには？」というやつです。「どうやって楽しめると思う？」という問い掛けですね。これは、積極的な思考を作るという事にも貢献しますが、面白くなかったら、どうしたら楽しめるかという事を考えるんです。ここはなかなか子どもたちはやらないですね。面白くなかったら面白くないでおしまいにしちゃいます。ちなみに、私が子どもたちに授業をやっている時は、ゲーム、クイズ、など

えは一番下から見ると、チワワとブードルという犬がいますね。同じチワワでも、石川さんが飼っているチワワと佐藤さんが飼っているチワワは違いますね。個別具体的、違いますね。そこで、違っているとだいたいケンカが始まるんですよ。内の方がかわいいとか、あつちはうるさい犬とかね、すぐに区別、違いばかりを見つけてるんです。ところが、ちよつと上から見ると、俯瞰的に見ると、両方ともチワワで一緒だよって。大きな犬。そうすると比較争いがまた始まるんですよ。何やあの大きい犬、餌代かかって大変だし、引きずられたらケガしちゃうよね、よく飼うわねあんな犬、みたいなね。ところが一段上か



第1ヒント、第2ヒント、第3は答えみたいな感じですよ。少なくともヒントを出すと考えるんですよ。考える事をせずに、こつちがいきなり答えを言って解説しちゃうと覚えられないんですよ。だからなるべく引く張って引く張って考える場を作るんですね。

そこで、子ども手帳というのを開発したんですけど、何かと言うと、手帳にやるべき事を書いて、終わったら赤線で消して、ポイントにします。そうすると子どもたちは、勉強は嫌だけどポイントが欲しいからやるんです。だけど、勉強やってる間に習慣になって来たり、継続的にやってくるから力が付くので、途中からポイントではなくて、出来る自分が嬉しくなってきたり続けるっていうふうに変わって行くんですね。あれやりにさい、これやりにさいって言って、はい分りましたってやらないですよ、普通。

2つ目、「何のため？」というやつです。「これ何のためにやると思う？」って問い掛けです。本当は子どもが聞いて来たらするんですが、「勉強は何のためにやるの？」とか。ちなみに皆さん、「勉強は何のためにやるの？」と子どもに聞かれたら何と答えますか。私はね、こう答えています。「今皆がやっている勉強って、日本では150年やっている。明治に入ってからずっと。しかもだ、理科とか算数とか、世界中で同じような事やっているんだ。歴史的には1500年。空間的には全世界。もし、意味がなかったらとくにやめていないか？だって意味がなかったらやる必要ないんだから、なくなっているはずだよ」って。とい



なぞをいつも意識してやっています。なぜなら、子どもたちは、ゲーム、クイズ、などなどには食い付くからです。クイズ番組みたいな感じで、「第1問、これこれは何？はい、制限時間20秒。」で分からないから、

う言い方で終わるんです。つまり、これが目的だとは言わないんです。目的がなかったら消えていくよねという言い方。目的は自分で考えろって話ですよ。こういう言い方をしている場合と、もう一つ「脳トレ」という言い方をしています。「脳のトレーニング」。例えば、国語は国語的な考え方を、算数・数学を鍛えている。算数・数学的考え方が出来る脳のある部分を鍛えている。理科は理科的思考、社会は社会的思考、全てにおいて、その考え方の違いは皆バラバラなんだけど、それが脳の違う部分を使っているから、脳の活性化に繋がる。そうすると、大人になった時、ある問題に直面した時に、理科的に考えて解決するか、算数的に考えて解決する事が出来る。もし、算数・数学をやらなかつたら、それは無理だよ。」「つまり、脳のトレーニングだから、覚えるとか覚えられないじゃなくて、考え方が役立つってあるんであって、そのトレーニングをやっているんだよ」っていう言い方をする場合もあります。そんな感じで、「何のためだと思おう？」といった問い掛けをすると、答えが出ないにしても



「うーん？」ってなりますよね。そういうふうな感じのワードです。

それから後、「そもそも」というワードです。そもそもと言うと原点に話が戻るでしょ。例えば子どもが兄弟ゲンカやっていた時に、「そもそもさ、何でケンカになったの？」って聞くんですよ。すると、二人は考えますよね。「何でかな？」みたいな。となると原点に話が戻って、一瞬冷静になるわけですよ。「そもそも」と言う事で、ぐちゃぐちゃしている脳を一旦元に戻してあげて、それと同時に考えるという事をさせるんです。

次に、子どもが小さい時に凄く有効的なやり方なんですけど、「イフ・ファットの法則」と言っていて結構有名なんですが、「もし何々だったらどうなると思う？」っていうやつです。

東海道五十三次ってありますよね。あれをね、今から10年くらい前に500km、全部家族で歩いたんですよ。日本橋から京都の三条大橋まで500km。その時にね、上の子が小学校2年生で、下の子が年中さんでした。あれはいいですよ、凄く楽しいですね。ただ、歩いている最中退屈するじゃないですか、子どもたちが。そこでね、歩いているといろんな物があるから、例えば郵便ポストがあったら、そこでクイズ出すんですよ。「あのさ、100年後の郵便ポストはどうなっていると思う？」なんて聞くわけですよ。答えはないでしょ、これって。すると子どもは、「うーん、こんな感じ」とかって喋る。「ほーなるほどね、それ面白いね」なんて言いながら。質問は

「これとこれ、どこが似ているかな？」とか、子どもの年齢に応じてちよつと変わりますよねって言う事です。後、子どもは、分からないってほしいって答えて来ますが、これは問題ないですよってさっき言いましたよね。考える事が重要であって、答えはどうでもいい。後、子どもが言っても全然乗って来ない場合は、親が自分の考えを言っちゃおうと言うのもあります。つまり、目的は、こういった問いを掛ける、疑問符が付くような問いを家でやっていると、彼らは外で自分で勝手にやるようになるんですよ。授業中や勉強やっている最中に、それが出来ればオッケーと言う事ですね。だから家ではあんまり真面目に受け取ってなくても、何回かやっている間に自分で勝手にそれが出来るようになるフォーマットが出来るという事です。

後は、勉強と思わずに使うという事です。勉強させている、学ばせていると思ってるって子どもは一発で見破るので、日常の雑談でやるって事です。ちなみにですね、雑談というお話をさっきから何回かしていますが、親子の信頼関係を築く上で大切な事です。信頼関係は、コミュニケーションの量に比例して出来るんですね。よく、反抗期とかありますよね、親が言って反発して来るって。あれ、反抗期って言う言葉で片付けているけど、何で反抗するのかって事なんです。これって、親が反抗するような事を言ったりやったりするからなんです。じゃあ、言ってもあんまり反抗しない場合ってどんな感じかという、親子の信頼関係が出来ている場合

なんです。親御さんは子どもを信頼していると思ってるかも知れないけど、以外とそうでもない。愛情はあるんだけど信頼していない可能性があるんですよ。愛情と信頼って別物ですからね。愛情があっても子どもを信頼していないから、子どもも親を信頼しないという関係性が出来上がってしまうんですよ。子育ての世界というのは、信頼関係が土台になっているんですよ。じゃあ、この信頼関係を築くにはどうするかというと、一番簡単な方法が、コミュニケーションの量を増やす事です。出来れば、子どもの方がいっぱい喋っている、親は聞き役。喋っている人間の方が心が充実するので。「へー、そうなんだ、それで次どうなったの？」とか、ちよつと質問したりとかっていうのが一番いい感じなんです。その時に扱うテーマは、学校の話、勉強の話って結構嫌がります。子どもから言ってくる場合は聞いてあげていいんだけど、こっちから「そう言えば今学校どうなの？」とか、詮索されているような気になるんですよ。するとだいたい子どもは、「別に」とかと言って答えたりするわけです。そういうテーマになっちゃうと親御さんは子どもの事上から目線で言うでしょ。言いなさいみたいな感じ。優しく言っても。なので、学校とか勉強ってね、上下関係があるテーマなんです。だけど、雑談になると上下関係がないので相手も抵抗なく喋って来るんです。皆さんはお子さんの事を自分より下だと思ってるでしょ。育てたり産んだりして、小さいし。でも、子どもは親の事を上と

適当でいいわけなんです。別に答えないんだから。そうするとその間、空想力、イマジネーション働かせながら考えますよね。また、表現力も付くでしょ。こうやって問い掛ける事によって頭を動かして表現するというのを、自然と日常の何気ない会話の中に混ぜて楽しみながらやるというのもいいですね。

それから最後に「本当かな？」ってやつなんですよ。例えばニュースとかやっていて、「あれ？これって本当に起こった事なのかな？」とか、人からの噂話を聞いて、「それって事実？」とかいうふうに言うって一瞬考えるでしょ。「あれ？どうかな？」って。実はこの問い掛けというのは、勉強の時に結構重要な考え方で、疑問を持つというやつですね。「これちよつとおかしくない？」とか、そういうふうな問題意識を持つて行くと、結構自分なりに前向きになれるりするんですよ。

使用上の注意をよく読んでからお使い下され

いずれにしても今日お話した最初の5つ。「なぜ？」「どうしたらいいと思う？」「どう思う？」「要するにどういう事？」「例えばどんな事ある？」というこの5つを日常会話の中にちよつと織り交ぜてみると結構面白くなって行きますね。

最後のページの方に移りますが、今のお話、使用上の注意をよく読んでからお使いくださいという事です。「要するに」という言葉を3歳の子どもに言っても分かんないですよ。だから、

は思っていないですよ。だからため口きいてくるでしょ。同僚と思ってるんです。でも、上の立場、年長者の人は下と思ってるからトラブルが起こるんです。しょうもないテーマでいいんです。学校や勉強以外であれば、普通に楽しんで会話出来る。この会話の量が増えれば増えるほど信頼関係がガンガン出来上がって行きます。そうすると、仮に、勉強の話をちよつとと言ったとしても、子どもはそんなに強く反発して来ないですよ。信頼関係が出来ているからです。なので、この雑談を通じたコミュニケーションというのはすごく大切になって来ます。

後は、頻繁に使わない。今日お話した「なぜ？」というのの言い過ぎると、「お母さんいつも、なぜばかり言うてるよね、自分で考えたら」って子どもが言い出します。後、全てを使おうともしない。何か思いついたらいいかなと思えます。「なぜ」とか「どうしたらいい」は、子どもは結構聞いて来ます。その時に、すぐ答えるんじゃなくてオウム返し、まずは子どもからという順番ですね。これを心がけていただくと思います。とにかく、子どもが先なんです。こっちは後からっていう、そこを対話の中で意識していただくいいかなと思います。

又みなさんとお会いできる事を楽しみにしています。ありがとうございます。

家庭で子どもに教えたことや、育みたい力など、家庭教育のヒントになる情報をお伝えします！！

みんなで家庭教育！



私の子育ては親育ち

子育てアンテナが受信した3つの言葉

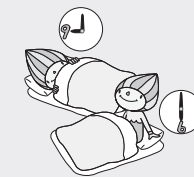
「今日は気分が乗らないから勉強しない。」
「歯を磨くように勉強しろ！」
「歯を磨くように勉強しろ！」
これは、ある漫画の有名なセリフです。習慣化できると「その行動をするのが当たり前になる」と感じる。「違和感を覚える」気持ち悪い。「違和感を覚える」気持ち悪い。「違和感を覚える」気持ち悪い。

一 習慣化

「今日は気分が乗らないから勉強しない。」
「歯を磨くように勉強しろ！」
これは、ある漫画の有名なセリフです。習慣化できると「その行動をするのが当たり前になる」と感じる。「違和感を覚える」気持ち悪い。「違和感を覚える」気持ち悪い。「違和感を覚える」気持ち悪い。

二 心理的安全性

「家庭は、子供たちが最も身近に接する社会。常に子供の心のよりどころとなるものです。」
「心理的安全性」とは、自分の意見や気持ちを安心して表現できる状態のことです。会社などで、上司や同僚に異なる意見を言ったとしても、人間関係が



三 レジリエンス(回復力)

「仕事と子育ての両立の難しさなど、様々な要因を背景として、家庭の孤立化や、忙しくて時間的精神的ゆとりを持たない状況、さらには児童虐待など、家庭をめぐる問題も深刻化してきています。」
「レジリエンス(回復力)」とは、困難な状況から立ち上がる力のことです。心理的安全性が高い家庭であると「みんなで楽しく過ごす」も達成しやすいでしょうね。



恵那県事務所 振興防災課
家庭教育推進専門職 大島 明浩

おわりに

家庭教育に関わる取材をしていくとそれぞれの部署で担当の方や保護者の方が真摯に取り組んでいらつしやる姿に出会います。未来の日本を支える人材を育てる重要な営みであることを再認識する今日この頃です。

先生！ありがとうございます！

保護者から先生へ贈る感謝の四〇〇字メッセージ

先生！ありがとうございます！

3人の息子がここの神坂学校でお世話になり、もう17年ほどになります。PTA役員も何度かさせて頂き、三男も現在中学3年生。三男と共にいよいよ私も卒業となります。神坂学校は、幼少中が同じ敷地内にあり、PTAも一緒です。子ども達は小学校を卒業しても、先生には休み時間や授業等で会う機会があり、運動会や文化祭も一緒にいます。また幼稚園からお世話になった先生が、中学生になって再赴任され再会する事もあります。幼稚園から中学校まで本当に沢山の先生方に声を掛けて頂き、見守って頂いて子ども達は成長していると感じます。

コロナ前まで行われていた学校、地域合同の文化祭では、先生方と保護者が一緒に合唱を披露していました。保護者から参加やご指導をお願いした所、快く引き受けて下さり、当時の小学校の教頭先生、中学の教頭先生、音楽の先生等が、指揮や歌の指導をして下さり、他の先生方も参加して下さいました。子ども達は、自分の親と先生と一緒に歌う姿を観れるのが本当に嬉しい様で毎年楽しみだった様です。忙しい中時間を割いて子ども達の為に一緒に頑張ってくれた事、当時の先生方にも心から感謝申し上げます。

神坂学校の先生、我が子含め一人一人を丁寧に見て見守って頂き、ありがとうございます！お世話になりました。これからもどうぞ宜しくお願い致します。

(中津川市立神坂学校PTA家庭教育委員 高橋 郁美)

information

■作品を募集しています。

イラスト・なぜなぜ・逆言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキの裏面に描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所、学年と氏名を表面に記載してください。なぜなぜ・逆言葉は「親子ではてな」の回答とともにお願いします。

宛先はいずれも

〒500-8816 岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで

採用の方にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行(7・9・11・1・3月)されます。年度初め(4~5月)と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います(1冊200円、5冊1,000円)が、年度途中でのお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問い合わせください。

■1月号のお知らせ(予告)

特集=データと科学で証明する ここまでわかった家庭教育/表紙=蘇原第一小/学校のたからもの=高富小・城山小・三城小・岩野田中/わが家の宝物=坂祝中/11月エッセイ/みんなが家庭教育/みんな、いっしょに/保健室ノート=長島小/私の先生=古川西小/子育て半生記=中央小(各務原)/楽しい読み聞かせ=牧田小/親の背中=第二中(中津川)/楽な中/1冊の本=岩小・東安中/わが家の約束=富野小・中央中(羽島)/子の思い=桜ヶ丘小・昭和小・中山中/親の願い=藍川小・不破中/教育の窓=駄知小・鷺沼中/先生!ありがとうございます! =精華中/お話しクッキング/ふるさとの伝承=赤坂小/きらり!キッズ!=大和南小/夢中!熱中!我らが部活=糸貫中/私たちのPTA=神測中

【多様性尊重の教育③】シリーズ みんな、いっしょに

みんなで踊ろう レッツダンス!

岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修 教授 安田 和夫

ラテンのリズムが聞こえてきた!!

ラテンのリズムが聞こえてきた!!

令和5年6月11日(日)、第5回OGAKIスポーツフェスティバルが、大垣市総合体育館にて開催されました。このイベントは、障がいの有無や年齢などに関係なく、どなたにもスポーツの喜びや楽しさを味わってもらえるように企画されたもので、各種団体が、様々なコーナーやブースを担当しています。私が会長を務めている大垣市レクリエーション協会も、この日は「マグダーツ」という安全な磁石式のダーツを使って競技を楽しむ軽スポーツを担当しました。

休憩の時間に、ほかの会場をのぞいてみることにしました。すると、第2体育館の方から、私の大好きなラテンの音楽が流れてきました。思わず中に入ってみると、そこは、「ZUMBA ダンス&エクササイズ」のコーナーで、激しく情熱的なラテンミュージックにあわせて、100名近くの皆さん

のダンスが繰り広げられていました。そして、ステージには、インストラクターが、見事なリードで会場を盛り上げておられ、そのカリスマ性に一瞬のうちに惹きつけられました。そして、見よう見まねでダンスを始めました。

汗いっぱいになりタオルで拭き取るうとした時、すぐ近くに、ダウン症とみられる青年たちが楽しそうにその輪の中に入っているのがわかりました。

しばらくして、仲間のいるマグダーツのコーナーに戻ると、ダウン症の青年たちとご家族が、車座になって座っておられました。私は、この皆さんとは初めての出会いなのですが、すぐに、「会いたかった方たち」ということがわかり、声をかけさせていただきました。「失礼ですけど、『ピュアの会』の皆さんですか?」との問いかけに、「はい、そうです。」とお返事。心の中で「うれしー」と叫びました。以前からつながりたかった団体のみなさんでした。

このピュアの会は、ダウン症児を持つ親の会「ピュア」とします。ピュア』に大きなエールを送ります。

「ピュア」の活動を支える 野原渚先生の思い

さて、このダンス活動を支えるインストラクターの野原渚先生にもお話を聞きました。ピュアのダンス指導に携わっていたくインストラクターの方は、野原先生です。すでに何代目かになるそうです。野原先生のお話を聞く中で感銘を受けたのは、各地で開催されるイベントや、長年取り組まれているダンス(ZUMBA)サークルなどの指導でとても忙しい中、こうした障がいのある方のダンス指導に全力で取り組まれていることです。

後日、野原先生からのお薦めで、栃木で開催された障がいのある方、特に、車いすユーザーの方と一緒にできるフィットネス・ダンスのイベントに参加してきました。「岐阜でも広げていきたい」との熱い思いをもっておられることをうかがい、今後、何らかのサポートができればと思っています。

かっこいい! ピュアの青年たち!

6月25日(日)大垣市中川ふれあいセンターにて、ピュアの会の皆さんと再会しました。顔を覚えてくれていたようで、元氣にあいさつしてくれました。音楽がかかり始めると、みんなの顔つきがダンスモードに変わり。会場の青年たちが一体となって、リズムを感じて、踊りつづけていきます。一列目で踊っているのは先輩格の会員さんなので、大きなアクシオンです。「かっこいい!」と叫びたい気持ちでした。

何曲か覚えきれないほどダンスをしました。久しぶりの心地よい汗が流れます。会員のみならず、だれもがリズムに合わせて体を動かすことが大好きなようで、満足そうな表情です。休憩の時に、何人かの会員の皆さんにお話を聞きました。「踊るのが大好きです。」「うまくなつていくのがうれしいです。」「とのこと。そして、通勤している仕事場の話や、そこで頑張っていることを話してくれる方もいました。

お母さんたちの思い

活動終了後に、役員のお母さんたちと意見交換をしました。ダンスの活動を通してどんな願いを抱いておられるのか聞いてみると、「ダウン症のことを多くの方に理解してほしい。」「ダンスイベントなどへの出演を通して、会員の元氣な姿を一人でも多くの方に見てほしい。」とのことでした。

このダンスの活動は、代々引き継がれており、もう十数年続けておられるものだそうです。今では、会員の皆さんの「大きな楽しみ」であり、イベントへの出演機会が、会員の皆さんの「自信と誇り」につながっているとのことでした。障がいのある子どもを産み育てることは、決して簡単なことではありません。今も、新しく入会されるご家族へのピアサポートにも心を砕いておられるとのこと。子ども達やご家族が、社会から孤立することがないように、積極的に理解啓発に努めるとともに、様々な活動を通して、会員相互の「居場所づくり」に取り組む『NPO法人 岐阜ダウン症の会

て、1997年1月に発足して以来、活動が続けられているそうです。私は、当時、「ダウン症の子どもたちの写真展が開催される」「ダウン症への理解を広げよう」という新聞記事などを読み、とても興味関心がありました。その後、NPO認定を受けられて、2005年2月に、『NPO法人 岐阜ダウン症の会 ピュア』と名前を改め、現在も引き続き活動を続けておられるそうです。

さて、会員のみなさんに対して、自己紹介をして、「皆さんの例会があれば、一度うかがいたい」とお願いすると、6月開催のダンスの例会があるとのこと。日程を確かめ、出席可能とわかり、初対面にもかかわらず図々しく、「みんなと一緒に踊ってもいいですか」と、先ほど、ダンス会場にいた青年たちに聞くと、「どうぞ、どうぞ」との表情です。びっくりしたのは、その指導をしておられるのが、先ほど、ZUMBAを指導しておられた野原渚先生とのこと。どのようなご縁で、活動に参加されているのかにも興味がありました。

また、野原先生は、ご自身が主宰されるダンスイベントの参加費の一部を、ピュアの活動への寄付に回されています。本日に、「野原先生のダンスも生き様もかっこいい!」と叫びたいです。

実は、ピュアの皆さんや野原先生から、「ぜひ参加してください」とお誘いを受けたダンスイベントが12月に開催予定です。これは、「CHALLENGE DANCE (DANCEでつながる心の輪)」というイベントで、前半は、「障がいのある方たちとのダンス交流イベント」、後半は情熱的な「ZUMBA」との計画です。興味のある方は、参加してみませんか。新しい世界に踏み込んでみてください。





「みどりの丘」から 子供たちの健康を願って

尾崎小学校は周りを山に囲まれていて「みどりの丘」とも呼ばれています。ここで177人の児童が日々元気に学校生活を送っています。尾崎小学校では職員も児童も「やってみよう・やってよかった」の合言葉のもと、様々な教育活動を行っています。保健室でも色々な主訴で来室する児童の話聞いていく中で生活リズムの乱れによる体調不良が多いことに気がつき、生活リズムチェックを行いました。その結果、

高学年にいくほど、寝る時間が決まっていない児童が多く、それに伴ってすつきりと目覚めることができない児童もみられました。寝る時間については、スマートフォンの利用やゲームの使用時間も関係が大きいようです。また、歯みがきについてですが、学校では新型コロナウイルス感染症対策でお昼の歯みがきは実施していません。家庭での朝晩2回の歯みがきができているかを調べたところ、約2割の児童ができていないという結果になりました。寝る時間も歯みがきも、児童が健康を保つための大切な生活習慣です。スマートフォンやゲーム、テレビなどメディアの使用も、使い方によっては健康を害するものになってしまいます。

子供たちの成長や学習にとって、睡眠は非常に重要です。十分な睡眠をとることは、脳の発達と学習に重要な役割を果たします。成長期の子供たちはとくに、十分な睡眠が必要であり、睡眠が足りていないと学力や注意力に影響を及ぼすこともあります。ご家庭では子供たちの睡眠環境を整えることが大切です。寝る前にリラックスタイムを設けたり、規則正しい睡眠スケジュールを子供と一緒に作ったりすることがおすすめです。また、スマートフォンやゲーム機の使用を寝る前に控えることなど、質の高い睡眠をサポートする取り組みも大切です。また、むし歯や歯周病を予防し、口腔の健康を保つために、歯みがきは非常に重要です。子

供たちに歯みがきの習慣を身につけさせるためには、次のポイントが役に立ちます。

- ①歯みがきの楽しさを伝える。家族みんなで歯みがきをしたり、低学年では好きな音楽をかけて、楽しい雰囲気を作り出すのも良い方法です。
- ②毎日、同じ時間に歯みがきをする習慣を身につける。朝食後・寝る前の歯みがきはぜひ習慣にしましょう。習慣づくまでは、保護者が子供に声をかけて見届けることが大切です。
- ③歯科医への定期受診をし、むし歯予防や適切な口腔ケアを行う。

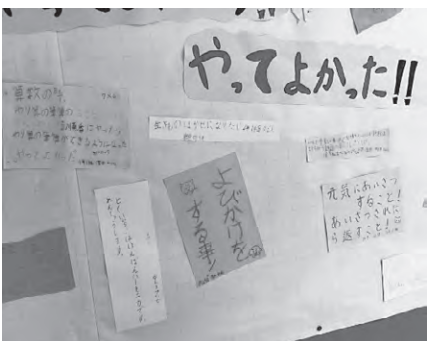
生涯にわたって自分の歯で食事ができることは、心身の健康にも良い影響を与え、しっかりと食べることでできれば食事の満足感が高まり、心の満足感や幸福感の向上につながります。スマートフォンやゲーム機などの使い方については、以下の点に気を付け

ることが重要です。

- ①使用時間を決め、定期的な休憩を取る。(近視の予防にもなります)
- ②家族と一緒に楽しめる活動を行い、メディアから離れる。家族のコミュニケーションを大切にします。
- ③インターネットの使用に際し、子供が適切なコンテンツにアクセスできるように保護者が配慮する。

昨今、子供たちが夢中になるユーチューブや動画コンテンツなどがたくさんあり、時間を決めていてもついイヤめられなくて見てしまうことが、よくあると思います。「ゲーム脳」という言葉がありますが長時間のスマートフォンやゲーム機の使用は、子供たちの脳の発達に影響を及ぼす可能性があります。適切な制限を設けることで、脳の健全な発達を促し、集中力や社会的スキル(他者と関わり合いながら日常生活を円滑に営んだりするため)に必要な、人間関係における知識や技術)を身につけることができます。

今後も学校と家庭の連携を図り、子供たちが明るく健やかに成長していくことができるよう働きかけていきたいと思えます。



信念をもつて

岐阜市立長森東小学校

教頭 丹羽純子

「私の先生」というテーマをいただいて、すぐに頭に浮かぶのは小学校五・六年生の担任のA先生です。A先生は、朝の会に偉人の話をよくしてくださいました。粘り強く取り組むこと、あきらめずに取り組むことの大切さを、繰り返し熱意をもって話されました。何度も聞くうちに、子どもながらに努力することの素晴らしさ、その価値を感じ取ることができました。

A先生の話の中で、初めて聞いた言葉が「不言実行」でした。それまでに聞いたこともない、新しい言葉でした。この言葉の意味は、「言葉に表さず、黙って実行すること」ですが、小学生の自分にとっては、具体の姿はイメージしにくいものでした。この言葉はA先生自身の行動の基盤となっているのではないかと今は思います。A先生は、大切にしたい価値を語ると同時に、自身の行動で「不言実行」の姿を見せてくださっていました。

A先生は、毎朝竹ぼうきを持って外掃除をしておられました。どんなきっかけがあったのか、今では思い出せませんが、いつしか私を含めた学級の子どもたちも、登校するとA先生と一緒に掃除を始めました。特に強制されたわけではなかったと思います。ただ、担任の先生や学級の仲間が取り組んでいることなので、一緒にやろうという思いでした。学校のために何かしよう、という思いで取り組んでいたわけではないのですが、そのうちに、朝掃除をするのは当たり前になってきました。

朝登校すると、ランドセルを片付けて外に出ます。ぼうきを持って、学校周りの歩道のゴミを掃きます。時間になると、ゴミを集めて教室に戻ります。毎日担任の先生と仲間と一緒に時間まで掃除を続けました。

ある冬の朝だったと記憶しています。学校の周りの歩道を掃除していると、通勤中の方が「きれいになるね。ありがとう。」と声をかけてくださいました。掃除をするのは当たり前、になっていた自分にとって、お礼を言われたことで、自分たちが行っていた取り組みが人のためになっている、ということを意識しました。そして、お礼を言われたことで、自分たちの行動が、価値あるものなのだという認識に変わりました。学校の先生方も、私たちの活動を価値付けて、折にふれほめてくださいました。

そこからは、ますます張り切って掃除に取り組みました。自分たちの行動が、人のためになっている、という思いは、自分たちはすごいことをしているのだという、自分たちの行動に対する誇りとなっていきました。

卒業式のお別れの言葉でも、私たちが取り組んだ「朝掃除」について語りました。今でも覚えているということは、自分の中でその活動に満足し、充実感を味わえたからだと思います。それまでの学校生活の中で、自主的にこれだけ長い期間何かに取り組むということはありませんでした。そして、周りの人に認められることで、自分たちの自己肯定感は確かに上がっていききました。やり切ったという、満足感を味わえるよう、A先生が活動を仕組んでくださっていたことに、自分も教員という立場になって気が付きました。そして、私たちが動かしたのは、A先生の信念と、信念を貫こうとする熱意、姿で示す指導だったと思います。

A先生との出会いは、その後の自分の価値観に大きな影響を与えました。信念をもって取り組むことへのあこがれは今もあります。そして、思いを込めて真摯に子どもたちに働きかけていけば、伝わるはずだ、という自分自身の信念につながりました。子どもたちとじっくり向き合い、一緒に活動していく中で、充実感や満足感を味わうことができたなら、教員としてこんなうれしいことはありません。実際の指導の中では、思いだけではうまくいかないことも経験しました。それでも、「必ず伝わる」という思いがあるから、今も教員を続けていられるのではないかと考えます。

わが家の宝物

わが家は私と妻と中一の娘、小六の息子の四人暮らしです。子供達の陸上と空手の習い事でもいただいた賞状がリビングに飾ってあります。これらがわが家の宝物です。

訪問者に見てほしいという思いで飾っている訳ではありません。私の実家は生まれた時から古い古く狭い家でした。私は中学、高校と陸上部に六年間所属していました。当時の地元では強豪中学校であり、私自身も歴代の先輩方には及びませんが県レベルまでは入賞し、片手以上の賞状をいただきました。私の両親は喜んでいながらも室内に飾る思いは当然無く、寂れたタンスに賞状をしまい込んだままにしています。いつしか時が立ち、私の二人の子供達は陸上と空手をやり始め、ある日、地区大会で辛うじて入賞し、些細な記録ではありますが、賞状をいただきました。私の過去の部活動の話になり、実家に私の賞状を取りに行くと、実家を引越した時にどうやらそれは廃棄されてしまったようでした。とても残念ではありましたが、大切な物を自己管理していなかった私に責任があり、あきらめる気持ちを作るのは決して難しくはありませんでした。それ以来、私は子供達がいただいた賞状は部屋に飾ろうと心に誓いました。子供達が大人になり、ふと家に飾ってある賞状を見て、当時のがんばった記録、そしてそれ以上に、ひたむきで一生懸命取り組んだ記憶を思い出し、今一度人生を見つめ直し一段と成長してもらえれば……。そして、彼らの子供達にも昔の自分達の話を話してあげられたらいいなあ、私の思いはただそれに尽きます。その時にはもう子供達は宝物の意味を理解しているはずでしょう。

来月には、息子の出場する大会があります。市内のホームセンターに額縁を買いに行く私自身を思い浮かべながら、毎日のように息子にハッパをかける日々を送っています。



リセット タイム 26

川辺町立川辺西小学校PTA

木下 真衣



私の息子はマイペースの化身。周りの状況がどうであっても、我が道を歩み続けて、ブレない。すべての人が校庭やトイレから教室に戻っても、彼はめげずに一番最後。給食を食べるのも、ゆっくりゆっくり有難くいただいている様子で、誰になんと言われようが一番最後。大好きな昆虫の話に火が付くと、求められていないほどの情報を周りに与え、戸惑わせる。彼は、めげない。周りが彼にどんな態度を取ろうとも。それらを耳にして、親としては不安を覚える。孤立するのではないか、先生に目を付けられるのではないか。私は息子と相反して、周りの状況ばかりが気になってしまふ。しかし、息子は我が道を歩む。そして、それ故に発見も多くある。それも、彼の好きな分野の中での発見だ。それを掘り進めていくうちに出会いもあった。昆虫好きの友だちや、昆虫などの生き物を扱う職業についている人々だ。そして、息子は彼らのような人に囲まれて、大学に行きたいと言いだした。私も息子の中に、夢や進むべき道が見えた気がした。

息子はめげない。きつとやりたいことに向かって一生懸命取り組んでいける。私は周りの目を気にしてばかり。それ故に世界を狭く見限っていたかもしれない。息子にはそんなことはさせたくない。息子が大きく成長するために、私ができることは何か。この先、逆境が彼を襲うだろうし、挫折を味わうことも多くあるだろう。その時に彼が倒れないように支え、どんな時も味方である。それが私にできる、唯一のことだと思ふ。彼の道しるべにはなれない。なぜなら私と彼は別の人間だから。性格も違う、属性も違う。彼の人生は彼自身で切り開くしかない。ただ、知恵を貸すことはできる。息子と息子の人生について一緒に考えていこう。そして見守ろう。彼がどんな人生を歩むのか。母として、人間として、私は息子に大変興味がある。



次回は... 各務原市立那加第一小学校PTA 大橋 采佳さん

全力ファザー

僕には大好きな言葉があります。「乗り越えられない壁はない」です。困難や壁というのは、神様がその人を見ていて、絶対に乗り越えられるようにしか与えません。必ず乗り越えて成長できるように困難や壁を与えるのです。

僕も試練を与えてもらった一人かなと思い、お話をしたいと思います。僕はごく普通に結婚して、男の子が2人生まれ、間もなく地元の家を建て、これから家族のために頑張っていこうと思った矢先、妻が癌でこの世を去りました。上の子が5歳、下の子が3歳の時です。

「パパなら大丈夫。」と最後、僕に言って目を閉じました。以来、シングルファザーとなり、毎日必死に家事・子育て・仕事をこなしています。その中で僕が大切にしていることは、お母さん役もすることです。子育てする中で、大変なことがあるたびに、「お母さんならどうするかなあ」と考えながらやっています。また、お父さんとしてたくさん外で遊んで、いろいろな運動を一緒にすることです。これをするには、まず仕事の残業はしないようにしました。そして、早く帰って子どもとの時間を作ることを大切にしました。でも、残業がある会社だったので、お世話になった会社を辞め、事情を理解してくれる会社に転職し、家事や子どもとの時間にあてました。

子どもが小さい時期は、ゴールデンエイジという言葉

これまで僕が悩んだりしなかったと言ったら嘘になります。「なんで自分だけ」と周りの家族を見ると落ち込むこともありましたが、こうなることは生まれる前から決まっていた、子ども達は僕を選んで生まれてきたんだと思うと、「やるしかない」と思いました。

これから子ども達もたくさんさんの困難や壁を乗り越えていかなければなりません。そんなとき「やればできる。自分ができる。私は決めた目標を達成できる。」と自分に言い聞かせることをお勧めします。脳が「そうなんだ」と認識して、いろいろなことに挑戦できるようになり、あきらめていたこともできたりします。

親御さんは、家事・子育て・仕事で、心も体も疲れている方がいると思います。子ども達も学校や習い事での疲れや悩みがあると思います。もし、「しんどい。疲れたなあ。」と思ったら「できる。やるぞ。パワー!!」と言ってください。気持ちの切り替えができ、

葉を意識していて、とことん子どもの相手をして、一緒に遊んでいろいろな運動を教えました。

また、凝り性すぎて、トランポリン・鉄棒・跳び箱・エアマットなどを設置して体操部屋を作り、毎日いろいろな体操を練習して、2人とも小学校に入学前になりました。体操クラブに通っていましたが、遠くに通うのが難しくなり辞めました。家での練習は続けました。

その後、勉強もさせていこうと思い、本屋でワークを買って、毎日やっから体操の練習をするのが習慣になりました。自分でも不思議なのですが、家でやっている体操や勉強も自分が教えているのです。体操なんて習ったこともなく、勉強もまじめにしていなかった僕が、「なんでできるのか」と考えた時、「人間何でも必死になったらできるんだなあ」と思ったし、子ども達の笑顔や引っ付いてくるのを見ると「親は僕じゃないんだ」と思い、不思議と力が湧いてくるのです。

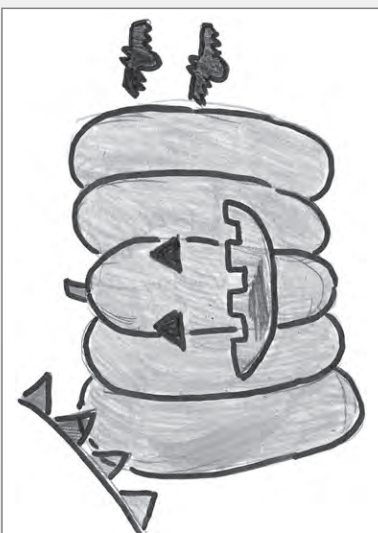
あるとき、長男が急に息苦しくなったり、気持ち悪くなったり、ご飯も少ししか食べられなくなることがありました。そこで、体操の練習は減らし、現在は、食べられるようになり元気になりました。「英才教育みたいなことをしていたことが、子どもにとってのストレスになっていたんだなあ」と反省し、考えさせられました。

元気になれます。あと、寝る前には是非言ってほしい言葉があります。「お疲れ様、私。頑張ってるね。今日も幸せだったなあ。」と自分に言うてください。心が温かくなります。

子どもがどんどん成長していくのは、うれしい反面、いつか親元を離れていくのかと思うと、寂しい気持ちになります。子どもの夢に全力で協力していきたいと思えます。ありがとうございます。



PN. トトおじさん (岐阜市)



PN. 金太郎 (加茂郡)

question ①

出題・玉腰 和都子 (郡上市)
〈答えは41ページ〉

「きひふへほ」…
これは何でしょうか?



本は楽しい・ぼくもわたしも読んでみたい

美濃市立大矢田小学校PTA

大矢田小学校は美濃市の西部に位置する全校児童109名の小規模校です。今年の全校合言葉は「やってみよう！もっとやってみよう！」です。自分の願い・目標に向かって毎日明るく元気に過ごしています。図書館利用についても積極的に取り組み、ここ数年は年間2万冊以上の本の貸し出しがあります。PTAや学校で取り組んでいる様々な読み聞かせを紹介します。

図書館司書による読み聞かせ

毎日、朝の会が始まる前に15分間の「朝活動の時間」があります。学級の時間、チャレンジタイム（朝学習）の他に、週に2回、読書の時間があります。図書館で借りた本や学級文庫の本を各自で読みます。どのクラスも読書に集中し、静かな時間が流れます。穏やかな朝のスタートです。そんな中、定期的に図書館司書が各クラスを読み聞かせに回っています。学年に応じた本を楽しく読み聞かせして

PTA学級委員会による読み聞かせ

各クラスのPTA学級委員さんによる読み聞かせを、1学期の図書館祭りに併せて行っています。学校の図書館の本や学級委員さんが



選んだ本（市図書館を活用する場合もある）など、様々な本を読み聞かせしています。その学年や季節に合ったものを選んでいきます。本選びに困った際は、図書館司書からアドバイスをもらっています。子どもたちは、特に初めての本を目にする時、どんなストーリーだろう、どんな結末になるのかなと興味津々です。学級委員さんの読み聞かせは、子どもたちにとってとても新鮮で、毎回楽しい読み聞かせになっています。

図書委員による読み聞かせ

読み聞かせなのだろうと、子どもたちや職員も楽しみにしています。読み聞かせを聞いた後に、感想を交流するといった場面も考えられますが、一人一人が本の世界の余韻に浸るといった点を大事にして、特に感想交流は行わず、拍手でこの会は閉じています。

ボランティアによる読み聞かせ

2学期の図書館祭りでは、毎年、「木風舎」という読み聞かせ団体に依頼して、読み聞かせに来ていただいています。プロの方々による読み聞かせは一味違い、すぐに本の世界に引き込まれてしまいます。紙芝居あり、複数で役割分担あり、いろいろな工夫をしながら取り組んでくださいます。今年はどうな



毎学期行う図書館祭りの中で、図書委員による各クラスへの読み聞かせもあります。本選び、読み聞かせの練習までを自分たちで行い、各クラスへ出かけます。図書委員会のお兄さん、お姉さんによる読み聞かせは、特に低学年にとってはあこがれの姿です。また、給食中の放送を利用して、全校に向けた読み聞かせも行っています。

英語の読み聞かせ

AETによる英語の本の読み聞かせも行っています。昼休みの時間に興味のある人は参加しようという形式で、低・中・高別に行っています。ワークスペースや時には運動場で行われます。また、英語の読み聞かせだけでなく、外国の遊びも一緒にやってみるといった、外国の文化に触れる貴重な時間にもなっています。

読書に関わる様々な取り組み

保護者や地域の方々との協力を得ながら、本の読み聞かせに取り組みと共に、夏休みの親子読書、校内読書郵便、移動図書館（市図書館による本の貸し出し）、校長先生による本の読み聞かせ等といった様々な取り組みを通して、「この本を手にとって読んでみたいな」という子を育てていきたいと考えています。



子どもたちへの模範となる生き方

本巢市立席田小学校

PTA会長 川村克己

私は子どもを育てる親として、家庭や学校、地域社会での役割について考えてきました。今回の作文では、私が学んできたことや目指していること、心掛けていることなどをお伝えしたいと思います。

子どもたちに良いモデルとなるために、私は日々の生活の中でいくつかの原則を心掛けています。まず第一に、言葉と行動の一貫性です。私は子どもたちに正しい価値観や道徳を教えるために、自分自身がまず実践することが大切だと考えています。言葉だけでなく、自分の行動や態度で示すことで、子どもたちに良い手本を提供しようと考えています。

また、共感と理解も重要な要素です。子どもたちは成長過程においてさまざまな感情やサポートしてくれて、一年間の地域の行事、学校や地域の各種団体に関わり、人の温かさを体感し、桜ヶ丘小・東可児中を中心としたこの団地が大好きになりました。「子育ては親育て」と言いますが、今、二人の子育てに関わっていて本当にそう感じています。自分が大人に成長するまでに親に対して抱いていた感情、共働きで育ててくれた親への感謝の気持ちを伝える事ができるようになったこと、子育てを経験している今だからこそ、子供の気持ち、親の気持ちを両方理解できると思います。

子育ては親育て

可児市立東可児中学校

PTA会長 前田靖

東可児中学校は、4つの団地から構成されている地域の中学校です。

前田家は、私と妻、大学1年生の長男と中学3年の次男の4人家族です。

長男が産まれて、子育てをするのにとても良い環境だよ、と勧められて居を構えませんでした。

私は、名前の通り、前が田んぼの三重県の田舎育ちで、団地に住むのは初めてで、団地は個々の集まりでスマートでドライで、近所付き合いも薄いイメージでした。

そのイメージは、翌年の自治会本部役員で真逆となりました。くじ引きにより自治会長になってしまった私を親世代の方々

情や悩みを抱えることがあります。私は子どもたちが自分の気持ちを話しやすい環境を作り、彼らの感情に寄り添うことを心掛けています。時には私自身の経験や困難なエピソードを共有することで、彼らの信頼を築くこともあります。

また、自己啓発も欠かせません。私は常に学び続け、成長し続けることを目指しています。子どもたちに対しても知識やスキルを提供するだけでなく、自分自身が模範となるような努力を惜しまないことが大切だと感じています。新しい分野に挑戦することや趣味を通じて自己成長を促すことも私の心掛けの一つです。

さらに、家族や地域社会との関わりも大切にしていきます。私は子どもたちに、家族や地域の一員として責任を持つことの重要性を伝えていきます。地域のイベントやボランティア活動に参加したり、近所の人々とのコミュニケーションを大切にしたりすることで、子

どもたちに社会的な意識を醸成していきたいと考えています。

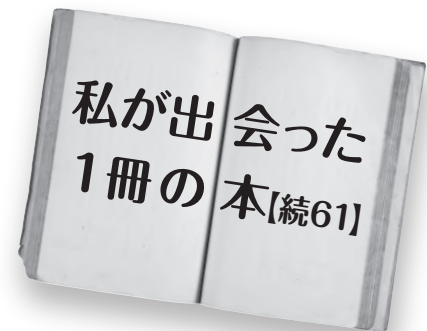
これまでの子育ての中で、多くのきつかけやエピソードがあります。例えば、子どもたちが私の行動を真似して家事に協力するようになったことや、地域のイベントで子どもたちが主体的に参加する姿を見たことなど、小さな成功体験が私の喜びとなっています。また、子どもたちが困難に直面した際に、私が支えとなり一緒に立ち向かっていく姿勢を見せることで、彼らの成長に寄与できることもありました。

私は子どもたちが幸せになり、自己実現することを願っています。そのために私自身が良いモデルとなるように努力し、子どもたちに真の価値を伝えることが大切だと信じています。

本日は、子どもたちへの模範となる生き方についてお伝えしました。私たちが自身の行動や姿勢を通じて子どもたちに良い影

格の違う子に同じ事を強制させようとしても、片方には響いても捉え方の違うもう一人には何も響かない。いきなり思いついたかのように学校の行事や部活、勉強、テストの事を聞いたりしても子供の答えは、別に、普通、ウザい、しか却ってきません。普段からの何気ないしような会話の積み重ねが大事である、と教えていただき、とても腑に落ちました。それ以来、空回りしながらも、上から目線ではない目線を合わせたい日常の会話をしようと努力奮闘中です。

令和の時代、パパは子育て、家事、家族サービスに積極的に参加し、かつ仕事も楽しく思いっきりやらないと満点の評価は得られません。仕事の文句やグチばかり言っていたら子供はパパを尊敬しないでしょう。面倒くさい事にもポジティブに関わっていくスタイルで、自らも楽しんで夢を持って一杯仕事をし、趣味も楽しみ、子育て、家族に力を注いで行きたいと思えます。



天国はまだ遠く

著者：瀬尾まいこ
出版社：新潮文庫
恵那市立串原小学校PTA会長

中垣野歩



『仕事も人間関係もうまくいかず、毎日辛くて息が詰まりそう。23歳の千鶴は会社を辞めて死ぬつもりだった』背表紙に記載されたあらすじの一文でこの本を買った。
近年、芸能人の自殺やコロナ禍での自殺増加が大きく社会問題となっ

ている。なぜ人は死を選ぶのだろうか。死に何を望むのだろうか。という、私も若き日に死を望んだことがある。

誰もが死んだら楽になると考えるのだろうか。すでに、その葛藤の日々から20年もの月日が流れ、私は生きていない。自営業を営み、子供たちと過ごし、遠く離れた故郷を思いながらもう、ここで生きた年月のほうが長くなりそう。自ら命を絶つ選択はもう浮かんでこないだろう。

千鶴は死ぬ計画をし、まったく知らない土地にきた。たどり着いた山奥の民宿でため込んでいた睡眠薬を一気に飲む。死んだはずなのに目が覚めてしまった。自殺の失敗。それなのにどこか清々しい。民宿を営む大雑把な男の作るごはんはどれも美味しい。『食事をすると自分が生きているのがわかる。生きているのが良いのか悪いのかは別にして魚や米や味噌さういう確かなものを食べているとここでこうやって存在しているんだなあって感じる』食は人間の基本である。思考までも整える。エネルギーが欲しいときのがつつり飯、お祝い事の華やかなちそう、体調を崩した時のおかゆ、大切な人と囲む食卓。どのシーンも大切でそして当たり前のごとくようだが特別なことだ。食事は生きることを感じられることだと思う。
千鶴は大自然と海の見える景色、

畑のおばあさん、宿の男、魚釣り、鶏小屋の掃除、教会での讃美歌。なんてことはないけれど、知らない土地の初めての経験に癒され慰められていく。私も田舎に住んでいる。コンビニも信号もない。あるのは大自然。満点の星空。元氣な地域の人、守られてきた伝統。都会から移住してくる人もいる。大自然の中に癒されに来るひともいる。

千鶴は最終的にまた都会に帰る。『自然は私を受け入れてくれるとしたくさんのものを与えてくれる。でも私はここで何をすればいいのかわからない』この一文は想像してなかった。てっきり田舎に癒されて田舎で暮らしていくのかと思っただけ。と同時に安心感を覚える。20年近くこの地に住み、家族を作り仕事をしていくけれどこの地に絶対いたいとか、この地のものを守らなきゃいけないとか、そんな感情は全く湧いてこない。仕事があれば何をしたいいかも過ごし方もわからない。ただ自分を生きることは諦めないでいようと心に決めていた。田舎だから、都会だから、そんなことではなく『自分をあきらめない』で生きていたいと思う。

死を考えた自分の過去と向き合うようなスピードで本を読んだ。
今の世の中の自殺者数のことを想ってみること、美味しい食事をすること、

著者の池井戸潤氏は「半沢直樹」「下町ロケット」シリーズなど、銀行や企業を舞台とした小説がドラマや映画化されてきたヒットメーカーです。新作「ハヤブサ消防団」も、2022年秋の単行本発売から早くも2023年の夏にドラマ化され、多くの方が見られたのではないのでしょうか。

岐阜県出身の池井戸氏が故郷を舞台に描いたミステリー、しかも今回のテーマは東京の銀行や商社ではなく地域の消防団、中濃から東濃にかけての山間部あるある小説：書店の郷土本コーナーに平積みされているだけで親近感が湧いて、購入したとたん一気に読み進めてしまいました。物語の舞台は木曽川沿いの高原地帯にある八百萬町ハヤブサ地区。ケ

イチちゃん・油揚げ・へぼ(蜂の子)・栗きんとんなどの食べ物に、河童・ツチノコ・枕貸測の伝説が語られる山村。移りゆく季節の描写を背景に、消防団法大会・年末夜警・行方不明者捜索や山の神様当番など面倒くさいあれこれが続く集落の日常に、不穏な放火事件を皮切りとして、巨大な陰謀が忍び寄ります。

消防団は多くの方が関わって、同じような経験をされているながらも、なかなか描かれることが少ない世界だけに、地域の普通の人たちが仕事や生活の傍らで生命財産の安全安心を守る活動に携わる様子がテーマになっているのは嬉しいと思います。主人公であるハヤブサ地区に移住した小説家に関わる人々、消防団のメンバーをはじめ、役員職員、自営業

の経営者、寺の住職、居酒屋の主人、それぞれ地域の親戚関係で繋がっている登場人物が話す方言やキャラクターのリアルさも岐阜県出身の池井戸氏ならではの感じます。

ただし、これを地方のほのぼのの小説に終わらせないのが池井戸氏のすごさです。エコブームに乗って集落の農地や山林を覆い尽くそうとしている大規模太陽光発電の弊害や、地域おこしに関わりながらどこことなく影を持つ移住者、そして過疎地を狙って入り込む怪しげな組織など、日常のあるあるに隠れた社会問題をつなげて、どんどん返しに次ぐどんどん返しで、読む人を引き込んで離さないミステリー小説に仕上げています。

「ああ、特に、フィクションながら」あれか」と思う社会・政治問題に関しては、全国的にもまだ誰も知らない、関心を抱いていない時期の2021年からこの小説の連載が始まっていることに改めて驚かされます。まるで予言のようですが、何気ない日常に隠れている問題を炙り出して、上質なエンターテインメントとして示しながら社会に警鐘を鳴らしているのが、池井戸氏の作品が多くの人に愛読される理由なのでしょう。

しっかり動いて寝ること。基本的な生活ができることは本当に心も体も健康にしてくれる。そして誰もが田舎に癒されて、大自然に囲まれて幸せ、という感情ばかりではないことに励まされる。これは例えに過ぎないが、誰もが違う感情を持ち、感性の中で生きる。だから、ここが合わないとか、ここが生きづらいとか。そんなことだって珍しいわけではないのだと思う。

ハヤブサ消防団

著者：池井戸潤
出版社：集英社
下呂市立萩原北中学校PTA会長
青木一英



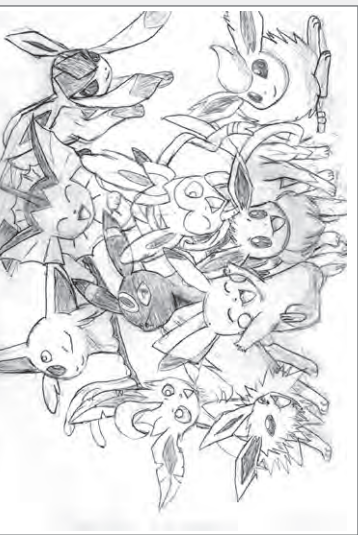
Illustration&Quiz

イラスト&クイズ



柿

PN. 木村 恵美 (各務原市)



PN. Mいくら (本巢市)

question

出題・中村 心音 (岐阜市)
(答えは41ページ)

奥さんが中に入っている秋が旬の野菜は？

子の思い

ぼくの見学日記

多治見市立南姫小学校

3年 松田純太郎

「いつもぎゅう食をつくってくれてありがとうございます。」

九月十二日、ぼくたち三年生は食育センターへ見学に行きました。はじめに、にんじんサラダのにんじんを一本一本よく見ていていねいにあらっていました。その後、かわをむいていました。ぼくたちのために一つ一つ目でたしかめながら、あいじょうをこめて作っているとと思いました。

次に、ワカメスープを作っているところを見ました。コーンのりようを考えて、少しずつ入れ、よく味がしみこむように、ゆっくりかきまぜていました。おもたい大きなしゃもじでまぜているのは、ぼくたちにおいしいものを食べてもらおうと思っているんだなあと思うと思いました。

いました。

そして、ぶたキムチ作りを見学しました。下しよりをして一つ一つ目でざいりようをたしかめて作っていたので、目がいい人でないといけない仕事だと思いました。くろうしてみんなのきゅう食を作ってくださいることが分かったので、これからは感しゃの気持ちをわすれずにきゅう食を食べきりたいです。

一五〇年後の且格小学校に思いを馳せ

岐阜市立且格小学校

6年 下嶋杏奈

私はこの且格小学校に誇りをもっています。今年、且格小学校は創立一五〇周年を迎えました。私は一五〇年後の且格小学校のみんなに伝えたいことがあります。

私が思う且格小学校の誇りは、「いつでも誰にでも同じように接して、困ったときは協力し、助け

親の願い

合える」ということです。且格小学校は、他の学年と接したり、一緒に遊んだりすることが多いです。そのため、他の学年とも仲が良く、昼休みも一緒に遊んだり、すれ違った時に気軽に話しかけたりしています。さらに、七月に実行委員会による先取りあいさつキャンペーンを行ったこともあり、朝、昼、帰る時などにいろいろな所で「おはようございます!」「こんにち

は。」「さようなら。」などの声がたくさん聞こえてくるようになりました。私も他の学年の子にあいさつされると、とても良い気持ちになります。このように、「いつでも誰にでも同じように接して、困っている時は協力、助け合えること」が私の思う且格小学校の誇りです。

これから、一五〇年が経つうちにいろいろなことが変わっていくと思います。ロボットが大活躍したり、空飛ぶ自動車などが出てきたりするかもしれません。でも、一五〇年経っても且格小学校のみんなは今と変わらず、人との触れ

「おはよう」の一言から

羽島市立桑原学園

9年 吉村綾菜

学校で二つ下の妹と一緒に遊んだり、話したりしているとよく先生や友達から「仲がいいね。」と言われます。いつも通り家で接しているのと同じように、学校でも接しているだけなのに。私の中では普通のことです。ですが、周りの「反抗期真っ只中」の友達から見たらその姿は普通ではないのかもしれない。

もともと私の家族は仲がよく、家族は大切だと思っていたのですが、その思いが強くなったのは、あるドラマを見たことがきっかけです。自分の母親が認知症になってしまったことから当たり前だった日常が一変し、当たり前ではなくってしまっ

親の願い

子ども達が伝えてくれること

大垣市立一之瀬小学校

PTA会長 小寺敦

子どもが小学生になった頃から家庭菜園をするようになり、子どもと共に野菜作りを行っています。

小さな一粒の種が大きな実りとなる喜びはとても嬉しいことで、それが食卓に並びことも小さな幸せです。ですが、そう簡単にいくとばかりではなく、育ちが遅かったり、実の出来が悪かったり、時には病気になるってしまったりと

喜一憂することばかりです。命あるものを手間をかけて育て、収穫することは一筋縄ではいきません。同じように考えることではありませんが、そのような体験をしながら、子どもも野菜もすんなりと自分の思ったように大きくはなっていくことが、と感ることがあるのです。

娘と息子は手がかかった頃が懐かしいほどに成長し、親離れを感じる年齢になりつつあります。それと同時に子どもたちは何かに対してどうしていきたいか、または過去のことに對してどうあつてほしかったかを言葉で伝えてくれるのです。それを聞くたびに、私自

青春だね(?)



逆さ言葉

らいおんおいら (ライオンおいら)

土屋 美賀 (関市)

身がよかれと思って精一杯手をかけたとしても、子どもにとってはお節介だったり、時には疎ましがられたりしていたんだと気が付かれ、反省させられます。野菜であれば、このタイミングだと思っていたのに植える時期が早すぎた、土の状態や天候を見極めきれなかったなどあげればきりがありません。言葉で伝えてくれないからこそ、大ごとになってから焦ってしまうこともありました。そう考えると、子ども達が私に色んなことを伝えてくれることは喜ぶべきことだと思います。

私は親として、「育てる」責任があるはずと思いついていて、責任がたが、子どもであれ、植物であれ、「育つ」ものだとは強く感じています。「成長する力を信じて見守る」ことは口でいうほど簡単なものではありません。悩むことも多くあります。しかし必要なものが何かを見極め、弱っている時には手を差し伸べ、自分で立ち上がれるよう子どもと接することも大切なことだと考えています。

とだと考えています。私自身のことを思い出ししてみると、家族の一員としてしてお手伝いをした記憶が今でも残っています。旅行のように楽しかった思い出ではありませんが、自然が豊かなこの地で過ごし、親となってより色濃く刻まれるようになった記憶です。会話を重ね、親子で一緒に喜んだ記憶が多ければ多いほど、子どもたちは自分の育った環境を好意的に受け止めていきます。それが自己肯定感へと繋がって、未来に羽ばたいていく原動力になっていってほしいと私は願っています。

うるさい人

 関市立下有知中学校 PTA会長 川崎智明
 私ที่บ้านに帰っていると、子どもたちから「扉の開閉音がうるさい、歩き方がうるさい、声が大きい、ガッツ」とよく言われます。子ども

もたちには、畳んだ洗濯物を片付けないし、部屋が汚いし、と思いますが、お互い欠点を言い合ってもどうしようもない状況の家族だと思っています。

こんな私でも、教科書を本棚の左から数学、英語と決めた順に並べる几帳面な性格がありました。高校生のときに転機が訪れました。私の父親を真面目で物静かな会社員と想像していましたが、他の会社の人たちと現地で仕事をすると映像を見たときに、明るく元気に喋る姿を見てとても驚きました。父親を一面だけ見ていた視野の狭さを痛感し、家庭をもつ際には、家族にわかりやすく自然体を心掛けたらいいと思います。

私は、気になったことを口にしがちな性格のようです。先日、高校3年生の長男とこれからの将来について100分近く話しましたが、もし30分だったら長男の声をちゃんと聞き取れずに終わっていました。子どもたちには、自分の意見を話せる人になって欲しいと

伝えていますが、子どもたちにしてみれば、私から頭ごなしに決めつけられるような、先に意見を言えない空気を漂わせると感じるそうです。もちろん私が反省です。

私は、PTA以外にも地域の役割がいくつかありまして、休日の自宅で過ごす際にも、電話対応をする機会があります。内容によって車に移動して話すなど配慮をしますが、たいてい家で話します。私は、「トド」みたいな風貌です。中学3年生の次男は、トドが畳で寝そべってイビキを立てている時に着電し、いきなりむくっと起き上がり何事も無かったかのように対応をする姿を見て、ONとOFFの切り替えが大事だと学んだようです。

先日、小学5年生の長女から「PTA会長とか消防団の地域団長とかをやっている、なんで偉そうにしないの?」と言われました。長女には、「そもそもなんで偉いの?」ただのイチ人間だし、偉そうにしなければいけない場面があれば振

教育の窓

生き抜く力

 笠松町立下羽栗小学校 教頭 遠藤聡
 「社会を生き抜く力」私が以前の社会教育主事として地域で子ども達の教育に携わっていたときにも、よく耳にした言葉です。当時、社会や価値観の大きな変化の中で、子ども達の生活体験・自然体験・社会体験の機会が減っていることが課題となっていました。体験活動を通して身に付けられる「社会を生き抜く力」は、「大きく変

化する社会に対応するための力」と捉えることができますが、「大きく変化する社会においても幸せに生きる力」とも考えられるのではないのでしょうか。

この「幸せに生きる力」について思い出深い出会いがありました。六年前に行われた社会教育研究大会福井大会で、福井県名田庄地区唯一の医療機関である国保名田庄診療所(当時)の所長として地域医療を支えている中村伸一医師の講演です。演題は「実践的幸福論〜だけれど、幸せになるための確かな方法〜」でした。中村医師は幸せになる方法として、①謝ること②親切にすること③生活習慣力を高めること④笑顔で過

ごすこと⑤ポジティブ対ネガティブ ⑥感謝すること⑦強みを生かすこと⑧三つのいいことを見つけて⑨愛情を注ぐことの九つを示されました。

③の「生活習慣力」とは、「生きがい・人間関係・ゆとり」だそうです。北欧の国では、国が掲げる健康政策の上位は生きがい作りや人間関係作りであり、食事や運動は下位に位置していると聞いて驚きました。⑥の「感謝すること」には、感謝の気持ちをもつことはもちろんですが、感謝の気持ちを伝えることに効果があるようです。伝えることで、相手が嬉しい気持ちになるだけでなく、自分の幸福感も高くなる、これ

友達だったあの子



逆さ言葉

よいせんせいよ (良い先生よ)

市村 優成 (関市)

は自分に置き換えても、なるほどと
うなずけます。

海外では、大勢の被験者を八十年
にわたり追跡調査し、幸せの要因を
調べた研究があるそうです。その結
果、幸福感に大きく影響を与えるも
のは、財産でも名譽でもなく、地域
の人々との人間関係との結論が出ま
した。地域社会とのつながり、地域
の人々との良好な関係が、幸福感に
つながるのです。そう思って中村医
師の言う①②③を見てみると、確か
に地域の人々と良い関係が築けそ
うです。

「幸福＝長生き・健康」だけでは
ありません。「幸福＝周りの人を大
切にし、周りからも必要とされてい
ること、地域・家庭に居場所がある
こと」なのだと思います。「社会を
生き抜く力」とは、他者と円滑につ
ながり、自分も周りも幸せにする力
でもあるのです。



考えるって楽しい

美濃加茂市立東中学校
教頭 渡邊寛樹

夏休み、生徒会執行部のメンバー
が一日市長を体験する機会に恵まれ
ました。当日は、市の政策について、
市の担当者の方から資料とともに現
状の説明を受け、その後市長という
立場で自分たちの意見を交わしまし
た。また、新庁舎整備について考え
るワークショップについても10年
後、20年後の市のことを考え、どう
していくのがよいか様々な視点で意
見を交流しました。

政策協議は限られた時間の中で、
意見をまとめ結論を出さなければな
りません。そんな緊張感がある中で
も、生徒たちからは若者の視点で大
人が発想しないような考えや、実際
に現在考えられている考えなど、さ
まざまな意見が提案され、まとめら
れていきました。
その場に同席していた私は、とて
も感動しました。
体験を終えて、生徒の第一声は「楽

しかった」でした。そして、美濃加
茂市について詳しくなれたことも
に、これまで以上に愛着がわいたと
語ってくれました。

本校では、生徒とともに考えようと
いうことを大切にしています。
誰かが一方的に決めるのではな
く、教師も生徒も一緒になって1つ
1つの活動について、「何のために」
ということを考えています。例えば
「何のために掃除をするの」「何のた
めに10分配膳をするの」など、テー
マを決めて、各自が考え、交流し、
仲間の考えを知ったり、活動の値打
ちを理解したりしたうえで取り組ん
でいます。

また、行事についても安易に昨年
度と同じことをするのはなく、「こ
の行事のねらいは何なのか」、「昨年
はどんな思いでどんな内容を行った
のか」などを調べたり、考えたりす
る中で、自分たちでねらいを達成す
るために、アイデアを出し合いまし
た。4月に行われた新一年生との対

面式は、まさに、これまでにない全
校生徒、職員が楽しみ、新一年生が
安心できる素敵な会となり、生徒会
メンバーは、企画運営をする楽しさ
を実感していました。
このように自分たちで考えて実行
することが活動の質を高め、自分か
ら主体的に取り組む生徒の増加につ
ながっていると感じます。

スマホに話しかけるだけで答えを
簡単に得られる便利な世の中で、考
えることを誰かに任せ、考えること
を避けてしまう人がいるかもしれま
せん。そんな現代に、試行錯誤し、
簡単にはうまくいかないものかしら
や、失敗経験を味わいながらも、考
える楽しさを実感できる生徒を増や
していきます。

家庭でも、保護者の方と話し合っ
たりすることがあるという生徒が何
人もいました。
これからもぜひ、お子さんと一緒
に話し合う時間を増やし、考える楽
しさを味わわせてほしいと思います。

子どもたちとの大切な時間

瑞穂市立本田小学校PTA副会長 河村 あゆみ

我が家は、中学2年生の息子、小学3年生と年中の娘、
私たち夫婦の5人家族です。そんな我が家の約束事を2つ
紹介します。

約束① 挨拶をする

「おはよう」「いってきます」などの挨拶は必ずするよう
に心がけています。表情や声のトーンはその
時々で違います。挨拶でその時の子どもの様
子が分かり、そこから親子のコミュニケーショ
ンがはじまります。

約束② スマホやゲームは時間を決め、自分 の部屋に持ち込まない

子どもたちは自分でスマホやゲームや時間
を管理し、楽しみつつも、兄妹と遊んだり、
家事や手伝いをしてくれたりしています。

これからも子どもたちの成長と共に約束事
は変わっていくと思っ
ますが、その都度家族
で話し合っ決めて、子
どもたちと過ごす時間
を一番大切にしてい
たいと思っています。



我が家には高校2年生の息子と中学2年生の娘がいま
す。ルールは特に決めておりませんが、それぞれ今出来る
ことを考えて動くことを基本としています。
子ども達の成長はあつという間、なるべく口出しせずに、
本人のやりたい！を尊重しています。
生活面ではそれぞれが自分で起床からのスタートです。
母は体力維持のため早朝から歩きに行っています。
コロナ禍、我が家に2匹の家族がやってきました。家族
の癒しです。全員でお世話をしています…と言いたいとい
ろですが、お父さん任せです(笑)

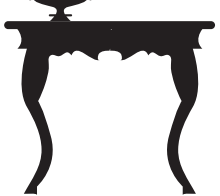
また息子の高校のお弁当作りもお父さんがし
ています。そんな背中を子ども達は見て、何か
を感じてくれたら嬉しいです。
子どもも大人も一人の人間として、自立して
いけると良いですね。私達大人は子育てをして
いるというより、子育てを通して成長させてい
ただいてるように感じています。

子育て渦中は大変ですが今振り返ってみると
一緒に過ごせる時間はわずかです。笑顔で過ご
せるように心掛けたいと思っています。



松村家の巻

131



大垣市立西中学校PTA会長 松村 麻里
尊い家族

さけのホイル焼き

～ちゃんちゃん焼き風～

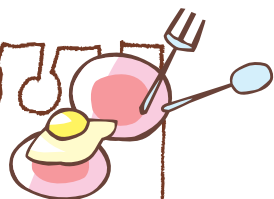


岐阜県学校栄養士会・(公財)岐阜県学校給食会

この料理は、旬の秋ざけときのこを使用したメニューです。さけの上に具材をたくさんつけて、北海道の郷土料理「ちゃんちゃん焼き風」に作りました。白みそベースの合わせ調味料とバター風味がさけと具材にからまり、白いご飯によく合います。栄養も豊富で、体をつくるもととなるたんぱく質やおなかの調子を整える食物繊維を摂ることができます。具材をのせたり、アルミホイルで包んだりする作業をお子さんと一緒に楽しみましょう。好きな具材を加えるなど、アレンジして作ってみてください。

作り方

- ① さけに塩こしょうと酒をふり、下味をつける。
- ② 玉ねぎは薄切り、キャベツは一口大に切る。しめじ、えのきたけは石づきを取り、ほぐす。
バターは4つに分ける。アルミホイルは、さけと具材を包める大きさに切る。
- ③ ボウルにAの調味料を、混ぜ合わせる。
- ④ ③に玉ねぎ、キャベツ、ホールコーン、しめじ、えのきたけを入れて混ぜる。
- ⑤ アルミホイルに①のさけをのせ、上に④の具材をのせる。その上にバターをのせ、アルミホイルでしっかり包む。
- ⑥ 180℃に温めたオーブンで約15分焼いて出来上がり。
※フライパンに並べてふたをして、中弱火で蒸し焼きにしても作ることができます。



材料

【材料】(4人分)

- さけ切り身(生)……………4切(200g)
- 塩こしょう……………適宜
- 酒……………小さじ1
- 玉ねぎ……………1/4個(50g)
- キャベツ……………2枚(50g)
- ホールコーン……………20g
- しめじ……………20g
- えのきたけ……………20g
- 白みそ……………大さじ1と1/2
- A しょうゆ……………小さじ1
- 砂糖……………小さじ2
- 有塩バター……………20g
- アルミホイル……………4枚

●栄養価(1人あたり)

エネルギー	135kcal
たんぱく質	12.8g
脂質	6.7g
カルシウム	21mg
鉄	0.6mg
亜鉛	0.5mg
ビタミンA	32μgRE
ビタミンB1	0.13mg
ビタミンB2	0.15mg
ビタミンC	7mg
食物繊維	1.2g
食塩相当量	1.0g



親子ではてな



Q1 七五三のお祝いに欠かせない飴の名称はなんですか?

- ア 熨斗飴(のしあめ)
- イ 鼈甲飴(べっこうあめ)
- ウ 千歳飴(ちとせあめ)



Q2 イチジクの中にある粒々は何の部分でしょうか?

- ア 花
- イ 根
- ウ 種



応募方法

応募者は、はがきで、11月末までに下記の宛先へお送りください。
(1人1枚・当日消印有効)
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8816
岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには「わが子のあゆみ」への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

●11月号クイズの答え

●郵便番号・住所
学校・学年・氏名
保護者名

●『わが子のあゆみ』
への感想・意見

●「なぞなぞ」の
問題と答え

●逆さ言葉

9月号クイズ答え

Q1 ア Q2 イ

9月号のクイズ当選者

深尾 美帆(岐阜市) 鈴木 伶実(郡上市)
木村 陽平(各務原市) 和田 育音(郡上市)
松原 壮右(羽島郡) 伊佐治琉那(美濃加茂市)
勝 咲来歩(不破郡) 平田 健人(加茂郡)
山岡愛優梨(関市) 伴 香羽(多治見市)

なぞなぞの答え

- ①ハガキ(「は」が「き」になっているから)
- ②さつまいも(さ妻いも)

義務教育学校白川郷学園は、地域と共通の願いである「ふるさと白川郷に夢と誇りをもった白川っ子を育てたい」という願いの下、特色ある教育活動として、「村民学」を実施しています。ふるさとを見つめ、自分自身を見つめ、未来を見つめ、将来の担い手となる土台を学び得る学習です。3つの分野で学びを進め、「先を読む力」を地域とともに育んでいます。いずれの分野においても、『1年生から9年生までの系統性』（未来とくらしは3年生から実施）を考慮して実施しています。

1 ふるさと学習

・「村民憲章」を基とした探究的な学習です。各学年のテーマは、村民憲章の条文とつながるように設定されており、村の良さを学ぶだけでなく、学年が上がるにつれて村の課題にも目を向け、自ら村に貢献することを目指しています。
 ・担任とコーディネーター（学年ごと）に学校運営協議会が選定した地域の方）との協働で年間の活動を計画し、ふるさとアドバイザー（FA：様々な授業・活動を支援して下さる地域の方）の協力の下、学習を進めています。

(例) 2年生

・自然に関わる仕事や活動を地域の方と一緒に体験することを通して、自然を大切にするこの意味や、よさを考えます。また白川村の豊かな自然を大切にするために、自分たちができることを仲間、地域の方、家族と考える姿を目指します。

(例) 9年生

・「いつまでも住み続けたい村づくり」のために、SDGsの視点から村を見つめたり、地域の方と語り合ったりする中で、未来の白川村について、何が必要か考えます。自分たちが村の一員として取り組める具体策を考え、その実践を通して、村の未来に貢献する姿を目指します。

2 白川びと学

・広い視野から、自分の生き方や進路を自分で決定することができるよう態度を育みます。そのために様々な「ひと」に出会い、多様な生き方に触れることを大切にします。

・学校運営協議会学校支援部では、「白川びと学」や「夢動画」等で活用できる人材バンクを作っています。2023年4月現在で、146名の方が登録されています。毎年更新しています。白川郷学園では、様々な教育活動において活用が可能です。

3 未来とくらし

(防災 生き抜く知恵と技)

トヨタ白川郷自然学校の専門講師から、災害時を想定した様々な体験を通して、自ら考え行動できる知恵と技を身に付けます。3年生から8年生まで段階ごとにスキルを高め、生き抜く知恵と技を習得し、15歳の「ひとりだち」を目指します。

(自然との共存)

自然と共に生きていく知恵や技を、地域の方から体験を通して学びます。生き物を守る植物を育てる大切さについて学び進めていきます。



◀5年生:トヨタ白川郷自然学校専門講師による、火起こし体験活動



▲担任とコーディネーターとの打ち合わせ



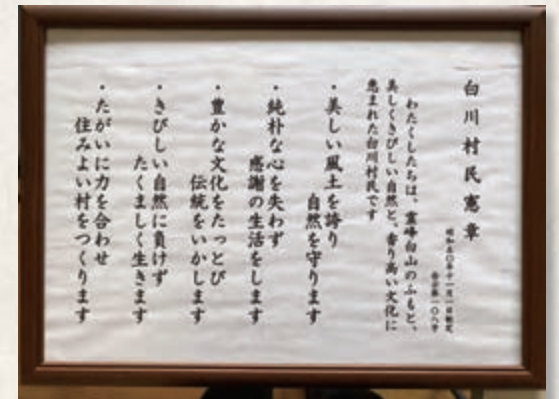
◀2年生:ふるさとアドバイザー指導によるサツマイモの苗植え



▲「茅刈り」活動 ～合掌家屋の屋根葺き用～



◀9年生:村議会への提案



▼白川村民憲章

いつまでも住み続けたい村づくりのために
 「村に貢献できる“ひと”」を地域と共に育みます。

地域の方とともに育つ鷺山の子

ふるさと鷺山に愛着と誇りを持ち、夢をもって生活できる子を目指して、地域の方の協力のもと様々な活動を行っています。

<三世代交流 秋の祭典>

昨年度から、11月の土曜授業で、『三世代交流 秋の祭典』を実施しています。この行事は、コロナ禍前には鷺山校区文化祭、校区フェスティバル、ふるさとふれあい活動の3つの別々に実施していた行事を再編して地域と学校が連携して開催するものです。昨年度に実施した内容は、鷺山校区のオリエンテーリング、昔遊び（折り紙、竹ぼっくり、こま、紙ひこうき）、老人クラブの方とのじゃんけんピラミッド、グラウンドゴルフ体験、鷺山校区文化祭の展示見学、竹灯籠グランプリの投票などです。子どもたちは、はぐるま班（縦割りグループ）に分かれ、オリエンテーリングや昔遊びなどを通して、地域を知ることや地域の方との触れ合いを楽しむことができました。



「三世代交流 秋の祭典」の「オリエンテーリングによる鷺山めぐり」チェックポイントで高校生ボランティアの皆さんが考えてくれたクイズに挑戦している様子



「三世代交流 秋の祭典」で、鷺山老人クラブ連合会の方と児童が「じゃんけんピラミッド」に取り組んでいる様子



「三世代交流 秋の祭典」で、青少年育成市民会議やPTAの方と一緒に昔遊び（竹ぼっくり）に挑戦している様子

<竹灯籠グランプリ>

令和2年度に、新型コロナウイルス感染が拡大する中、新型コロナウイルスがおさまり世の中が安寧になる事を祈ると共に、鷺山小学校児童の思い出になる事を願って、「鷺山まちづくり協議会」の方が中心となり「竹灯籠祭り」が学校のグラウンドで開催されました。令和3年度からも、「竹灯籠グランプリ」という名称で5、6年生を中心に竹灯籠づくりに取り組んでいます。毎年、「鷺山まちづくり協議会」の方を中心に、鷺山の西側の竹林から竹の切り出し・竹の乾燥からスタートします。9月には竹灯籠製作の説明会を実施していただき、10月の土曜、日曜を中心に、子どもたちが安全に竹を切ったり、穴をあけたりできるように竹灯籠教室を休日に開いて、支援していただいています。昨年度は、学校での展示後には、マーサ21ショッピングセンターでの展示や表彰式が開催されました。また、1月に岐阜公園で開催された「ぎふ灯り物語」にも作品が展示されました。今年もどんな作品が製作されるかとても楽しみです。



「竹灯籠グランプリ」に向けて、鷺山まちづくり協議会の方に説明をしていただいている様子



「三世代交流 秋の祭典」で、体育館の2階に展示された「竹灯籠」の作品



マーサ21ショッピングセンターで開催された「竹灯籠グランプリ2022」の表彰式後の記念撮影の様子

鷺山小学校は岐阜市の中心部より少し北側に位置する全校児童476名の学校です。学校のすぐ南側には標高68mの鷺山があり、その山頂に鷺山城跡の碑があります。この城は斎藤道三が岐阜城を長男の義龍に譲り、自らの隠居所にしたと伝えられています。

そんな歴史がある鷺山ですが、子どもたちは「笑顔あふれる鷺山小学校」を目指して、様々な活動に取り組んでいます。

笑顔あふれる鷺山小学校を目指して

<あったか鷺山っ子宣言>

昨年度の6年生の児童委員会が中心となり、誰もが安心して楽しく過ごせるように「あったか鷺山っ子宣言」を作ってくれました。

～笑顔あふれる鷺山小にするために～

- ・明るい挨拶をします！
- ・ぼかぼか言動をします！
- ・仲間のかがやきを見つけます！

今年度はそれをもとにして、各学級で温かい集団づくりを目指し「あったか宣言」を作成し、学級のかがやきづくりに取り組んでいます。



各学級の「あったか宣言」の掲示



各学級の「かがやき見つけ」の掲示例



玄関前で「あいさつ活動」を行っている児童の様子



鷺山青少年育成市民会議の方など地域の方と一緒にあいさつを行っている様子

<あいさつ活動>

5、6年の児童会の子を中心に、多くのボランティアの子たちが登校後に各校門や玄関前に立ち、毎朝元気にあいさつをしています。今年度は、鷺山青少年育成市民会議の方から子どもたちの取り組みに、私たちも参加しますとありがたい声を掛けていただき、7月と12月に一緒に活動する機会を作っていただきました。

<はぐるま遊び>

1年生から6年生までの縦割りグループで、月に1回程度一緒に遊びます。異年齢で活動することで、高学年はリーダーとしてのかかわり方を身につけ、低学年は高学年を見習って行動することができるようになります。



6年生のリーダーの子が考えてくれた遊びを外で楽しく「はぐるま遊び」を行っている様子



教室内で輪になって「はぐるま遊び（リーダーさがし）」を行っている様子

女子卓球部



女子卓球部は、まだ始めたばかりの1年生に2、3年生が寄り添って教え、共に成長することを目標としています。さらに、個人の課題を克服できるように仲間と支え合って練習に励んでいます。

男子卓球部



男子卓球部は、20人の仲間と練習に励んでいます。西濃地区や岐阜県内には、いろいろな強豪校がありますが、「個」と「絆」を大切に練習や試合に真剣に取り組んでいます。

サッカー部



サッカー部は、一人一人が自分のできることをやりきる部活です。試合中に全力を尽くすこと以外にも声を出すことや準備にも当てはまります。県大会出場を目標に日々練習を積み重ねています。

野球部



野球部は、中体連地区大会ベスト4、県大会出場を目標に、スローガンを「全力・笑顔・最後まで」と決め、チーム一丸となり、一戦必勝全員野球で頑張っています。

剣道部



剣道部では、部活で使う手ぬぐいに書いてあるように、「無心」を大事にして練習を行っています。学年関係なく、お互いが高め合いながら、日々練習に励んでいます。

陸上部



陸上部はそれぞれの目標に向かって仲間と競い合いながら成長できる部活です。挨拶や練習中の声出しなど礼儀を大切にすると共に一人一人が仲間を大切に、協力合うことで高め合うそんな雰囲気大切にしています。

女子テニス部



女子テニス部は、部員全員で支え合って練習をしています。仲がいいからこそ積極的にアドバイスをし合うことができるので、試合での弱点を克服できるようにこれからも頑張っていきます。

男子テニス部



男子テニス部は、少人数ですがみんな仲良しな部活です。毎週土日の朝と夜に部活、自主練習を行っています。大会でよい成績を出せるように日々努力しています。

吹奏楽部



吹奏楽部では、「楽しく真剣にやる」を目標として活動をしています。楽しくやっていく中でも、コンクールではよりよい賞をとろうと練習を行っています。「楽しく真剣にやる」を伝統として引き継いでいきます。

柔道部



柔道部では、心身ともに成長できるように日々努力しています。夏の中体連では部員が少ないなか全員が、個人・団体県大会出場を決めました。一つでも上を目指るように、日々の練習を頑張ります。

女子バスケットボール部



女子バスケットボール部は、NEVER GIVE UP OUR DREAMを心に練習を重ねています。部員全員の強い絆で勝利を目指して懸命に取り組み、結果だけを見るのではなく内容も大事にして試合にも臨んでいます。

男子バスケットボール部



男子バスケットボール部は、声を出して盛り上げること、しんどくても最後まで練習に取り組むことを大切に練習しています。県大会出場を目標にして一人一人が声を掛け合い力を合わせて取り組んでいます。

家庭科部



家庭科部は、布を使って巾着やコースター、編み物で小物など自分が作りたい物を一生懸命作っています。実際に作った物は普通の生活に役立っています。自分で作品を作ることの楽しさを感じています。

美術部



美術部は、依頼された横断幕や黒板アート、個人のキャンパス作品などを制作しています。学年関係なく交流があり、みんなで仲良く制作しています。完成したときの達成感や協力しながら制作する楽しさを感じながら活動しています。

女子バレーボール部



女子バレーボール部は、「声を出して、みんなで繋ぎ、自信をもってプレーすること」を大切に練習に励んでいます。1勝でも多く勝てるよう全員が一丸となって頑張っていきます。

男子バレーボール部



男子バレーボール部では県大会出場を目標に「声」「時間」「礼儀」を大切にして練習に励んでいます。仲間全員が全力で、ボールも勝利も追っかけていきたいです。

科学部



科学部は、科学作品展に向けた作品作りを行っています。昨年は、科学作品展で4つの研究が入賞しました。ダジャレ好きな先生と、理科好きな仲間たちで研究をしています。日常の疑問を解決できる楽しい部活動です。

女子バドミントン部



女子バドミントン部は、上下関係なく誰もが楽しめる部活を目標にして、1点でも多く点がとれるように基礎練習やゲーム練習を行っています。また最後まであきらめないように全員で声を掛け合っています。

男子バドミントン部



男子バドミントン部は、アドバイスをし合い、互いに高め合える関係づくりを大切にして活動しています。他学年とも一緒に練習し、お互いが楽しく技術を高め合えることを心掛けています。



私たちのPTA

「PTA・地域・学校」
みんなであいさつ活動



「デジタルPTA広報」
でPTA活動の宣伝・報告



常設資源回収「エコひろば」



親子登下校で危険箇所を確認



1. はじめに

根本小学校のある根本町は、かつては江戸時代から昭和時代の初期に根本焼という陶磁器が生産され、淡い青色の染付と丁寧な形成が一般的なイメージの伝統品が有名です。また、天文・天正の時代に築城されたと言われる根本城跡や、建御名方命を主祭神として祭る諏訪神社があり、自然と歴史が多く存在する地域であります。

今年の全学年の生徒数は452人です。学年によって3学級または2学級がある小学校ですが、年々少子化が進んで生徒が減少しているため、将来的には単学級となる可能性もあります。本年度は生徒数の減少やアフターコロナにもなってPTA活動に対して継続していくものと見直していくものを考慮しながら、PTA会員が無理なく有意義な活動となるよう進めていきたいと考えています。

2. 令和5年度の組織と活動計画

- ・ **【本部役員委員会】** 会長1名 副会長3名 委員長4名 副委員長1名 書記1名
- ・ 学校行事への協力
- ・ 各委員会との連携・調整
- ・ **【学級委員会】** 各学年2名
- ・ 学年、学級活動の推進

【生活環境委員会】

- ・ 環境整備作業、資源回収

【広報委員会】

- ・ 広報活動

【家庭教育委員会】

- ・ 会員の研修活動

【地区委員会】

- ・ 児童の交通安全並びに郊外指導

3. 活動の様子

令和5年度は「ユニバーサルなPTA活動」次代を担う子どものために「」をスローガンに掲げ活動をスタートしました。今年度の新しい取り組みとして、資源回収用コンテナ「エコひろば」を設置いたしました。これは各ご家庭にある資源を学校に設置したコンテナに会員の皆様が直接持ち込んで頂く資源回収を常時行えるようにしたものです。回収された資源は根本小学校の児童に還元されるものなので、会員が負担なく活動を行える行事の一環だと位置づけています。今後も各委員会による活動が予定されていますが、PTAが学校と保護者の懸け橋となり、協力関係を築きながら共に成長することができるPTAを目指していきたいと思えます。

3年ぶりの給食試食会



「子どもたちはいつもこうやって配膳しているんだ」



がんばる子らの 汗と笑顔と眼差しと

八百津町立八百津小学校



運動会

今年の運動会では、4年ぶりに応援合戦を行いました。子どもたちの声があふれる活気ある運動会になりました。



町探検

3年生の児童が、社会科の時間に町のいろいろな施設を訪問しました。自分たちの住む街を知る良い機会となっています。



七夕飾り制作

「短冊に願いを込めて・・・」、毎年、フレンドリーグループ(異学年グループ)で協力して七夕飾りを作っています。



FBC参加

今年度、潮見小と統合し、新たなスタートを切りました。4年生が潮見小の伝統であるFBCにも参加し、花壇づくりに励んでいます。



水辺の安全活動

水遊びを安全に楽しめるよう、今年度、町の担当者の方を講師に「着衣泳」の授業を実施しました。安全意識をさらに高められました。



艇庫活動

八百津町の自然を生かした艇庫活動を毎年5年生が体験します。カヌーにサップボード等、楽しい体験ができました。

機関誌「わが子のあゆみ」
令和5年度 初冬号
第75巻3号 通巻478号

発行/令和5年11月1日 岐阜県PTA連合会
〒500-8816 岐阜市菅原町3-3 岐阜県校長会館内
電話/058(262)3257 FAX/058(262)3259
Eメール/info@gifu-pta.jp ホームページ/https://gifu-pta.jp
編集/岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
印刷/サンメッセ株式会社